

ル者ヲ裁審シ及國王若クハ下院ノ名ヲ以テ之ヲ糾治ス

第六十條 前條ニ掲グルヨリ他ノ官吏其職務ヲ行フニ當リ罪ヲ犯

セバ大法院ヲシテ之ヲ裁審スヘキヤ否ハ法律ヲ以テ指定ス

第六十一條 國王若クハ王族ヲ被告トスル争訟ハ大法院ニ出願ス

然レ普通判司ニ訴出スヘキ物權ノ争訟ハ此限ニ在ラス

第六十二條 大法院ハ訴訟ノ舉行裁判及司法官ノ法律ヲ遵守スル

ヲヲ監察ス○大法院ハ法律ニ定タル例規ニ準シ法律ニ背キタル司

法官ノ命令處分裁判等ヲ取消スヲ得

第六十三條 大法院ノ僚員大檢事上等法院及初告裁判所ノ僚員ハ

終身其官ニ任ス○前文ノ官吏及定期間在職スル其他ノ判司ハ法律

ニ定タル場合ニ於テ裁判ニ由リ免黜スルヲ得又右官員ハ親ラ國

王ニ退職ヲ請フヲ得

○丁抹

第六十八條 第二十六條參看 リグスレツトハ最上等裁判所ノ裁判官及上院ノ

議員ノ同數ナル人員ヨリ成ルリグスレツトニ出席スヘキ上院ノ議員

ハ該院ヨリ撰ハレ四年間其職務ヲ行フ最上等裁判所一切ノ裁判官

某事件ニ關シタル評議及其審判ニ與カルヘキ時機ニ於テハ上院ヨ

リリグスレツトニ出席ヲナスヘキノ議員ハ其出席ヲ免ス其出席ヲ免

スヘキ議員ハ最後ニ撰擧セラレ或ハ寡數ノ投票ニ由テ撰擧セラレ

タル者ヲ以テスリグスレツトハ該官員中ヨリ其上席人ヲ撰任スルノ

權ヲ有ス○リグスレツトニ於テ某事件ヲ審判スルニ當リ若シ上院ノ

解散スルハ該院ヨリ撰擧セラレル裁判官ハ右事件ノ結局ニ至ル
マテ其職務ヲ奉ス

第六十九條 「リグスレ」ハ國王及下院ヨリ宰相ヲ告訴シタルハ審判
スルノ權アリ 第十四條參照國王ハ國ノ安寧ヲ害スル罪犯ト思考スルニ於
テハ下院ノ承認ヲ得テ宰相ニ非サル者ヲ提喚スルヲ得

第七十條 司法權ヲ行フハ一ノ法律ニ依テ之ヲ定ム

第七十一條 一ノ法律ニ定タル規則ニ依リ司法ノ行政ト區別ス

第七十二條 「トリビニ」諸裁判所ハ官吏等ノ權限ヨリ生スル爭訟ヲ審判スルノ
權ヲ有ス然レ右訴ヲ裁判所ニ爲シタル者ハ被告タル官吏ノ命令ニ
從フヘキ義務ヲ懈ルヘカラス 屬官ヨリ長官ヲ訴ヘタル時依
然其命令ヲ奉スヘキヲ謂フ

第七十三條 裁判官ノ權ヲ行フハ法律ニノミ循フ裁判官ハ裁判宣告

ノ効ニ由ルニ非レハ免黜スルヲ得ス且諸裁判所ノ構制ヲ變改ス
ル時機ノ外裁判官ノ請求ニ由ラスシテ轉任ヲ命スルヲ得ス然レ
滿六十五歳以上ニ至ルハ免官スルヲ得ルト雖レ尙其俸給ヲ與
フ

第七十四條 「プロセグユル」公行ノ治罪及口上ノ法式ヲ用ユル治罪ハ成可ク急施シ

且全國ノ司法ニ付キ之ヲ施スヘシ 蓋此ヨリ前秘密ノ治罪ト書取ノ治罪トヲ用フ刑法ニ關
シタル事犯及國事犯ニ付テハ陪審ヲ用ユ

第八十條 總テ拿捕シタル者ハ二十四時間ニ裁判官ノ前ニ之ヲ出ス
ヲ要ス拿捕シタル者ヲ直ニ放還スルヲ能ハサルハ裁判官ハ其理
由ヲ明記シタル宣告狀ヲ以テ該犯ヲ禁錮ニ處スヘシ右宣告ハ成可
ク迅速ヲ要シ遲クハ三日間ニ之ヲ行フ拿捕セラレタル者ヲ保證ヲ

立テ放還スルコヲ得ヘキ場合ニ於テハ裁判官ハ其保證ノ種類及其制限ヲ定ム○右宣告ヲ受タル者ノ求ニ因リ裁判官ノ宣告シタル事件ヲ遲滯ナク控訴裁判所ニ訴フルコヲ得ヘシ○罰金及禁錮ノ刑ニ間フヘキ罪犯ハ拘留スルコヲ得ス

○伊太利

第六十八條 凡裁判ハ國王ノ任シタル裁判官ニ由リ王名ヲ以テ宣告ス

第六十九條 郡裁判所ヲ除クノ外國王ノ任シタル裁判官ノ三年間在職シタル者ハ復轉免スヘカラス

第七十條 裁判所ハ上等下等ニ論ナク廢改スルコヲ得ス○裁判所ノ

構制ハ法律ニ由ルニ非レハ變更スヘカラス

第七十一條 裁判官ハ管内ノ訟獄ヲ聽斷セスシテ之ヲ他ノ裁判所ニ

移スコヲ得ス○故ニ特別ナル裁判所及專務ノ員ヲ設ルコヲ得ス

第七十二條 民事刑事トナク裁判所ノ訟庭ハ法律ニ依テ公行トス

第十三 府縣會及區町村會

○佛蘭西一千七百九十一年

第二十九條 民選議院ヲ編制スル爲メ公權ヲ有スル國民ハ二年毎ニ都府及區ニ集ルヘシ之ヲ撰立下會ト稱ス下會ハ法律ニ定タル官員ヨリ定期ノ前召集スル場合ノ外ハ三月第二ノ日曜日ニ必ス集ルヘシ

第三十四條 下會ハ其都府或ハ區ニ住居スル公權ヲ有スル國民ノ數ニ應シテ撰立人ヲ委任スヘシ但會席ニ出ルト否ラサルトヲ論セス公權ヲ有スル國民百五十一人ヨリ二百五十八迄アルニ於テハ撰立人二人ヲ委任スヘシ其他割合之ニ準ス

第三十六條 各州ヨリ委任サレタル撰立人ハ其州ニ割付タル數ノ代

議者且預備トシテ其定數ノ三分ノ一ノ代議者ヲ撰任スル爲メ集會
スヘシ○撰立人ノ會議ハ掛リ官吏ヨリ別段召集スル場合ノ外ハ三
月最後ノ日曜日ニ必ス集ルヘシ

第四十三條 下會及撰立人ノ會議ノ掌務ハ人ヲ撰立スルコトニ限ルヲ
以テ其事終ラハ直ニ解散スヘシ又召集セラ、ル迄ハ再集スヘカラ
ス但第二十九條及第三十六條ニ記シタル場合ニ於テハ格別ナリト
ス

第四十四條 公權ヲ有スル國民ト雖モ武器ヲ携フレハ會議ニ加ハリ
投票スヘカラス

第四十五條 會議員ヨリ別段ノ頼ミナケレハ兵ハ集會所ニ入ル可カ
ラズ集會ニ暴行起リテ其上席人ノ命令アルニ於テハ即時ニ兵ハ入

ル可シ

第四十六條 各郡ニ於テハ二年目ニ各區ノ公權ヲ有スル國民ノ連名
簿ヲ作ルヘシ且各區ノ連名簿ヲ下會ノ集合期限ノ二月前ニ布告掲
示スヘシ○連名簿ニ記シタル國民ノ分限ヲ訟フルコト或ハ自己ノ名
ヲ無理ニ記セサルコトヲ訟フルハ裁判所ニ之ヲ爲シ裁判所ハ之ヲ簡
畧ニ裁判スヘシ其後ノ會議ノ集會ノ前裁判言渡ヲ以テ改正スルノ
外ハ前ノ連名簿ハ下會後ノ集會ニ加入スル爲ニ用ユヘシ

第四十七條 撰立人ノ集會ハ其出ル者ノ分限及權ヲ見糺スルヲ得ヘシ
但其集會ニテ爲セシ決定ハ民選議院ノ代議者ノ權ヲ見糺セシ節ノ
吟味アルマテハ之ヲ假リニ行フヘシ

第四十八條 孰レノ場合ニモ孰レノ託辭ヲ以テ國王及國王ヨリ委任

シタル孰レノモノト雖モ會議ノ召集ノ正不正ト會議ノ法式撰任ノ
體裁或ハ國民ノ政權ニ關スル諸事ニ參加スヘカラズ尤右ハ法律ニ
從テ國民ノ政權ニ關スル事件ヲ裁判所ヘ差出スヘキノ場合ニ於テ
檢事ノ爲スヘキ勤ト抵觸スヘカラス

○佛蘭西 一千七百九十三年

第十一條 下會ハ六ヶ月以上各區ニ住居セシ國民ヲ以テ編制ス

第十二條 下會ハ投票スルノ權ヲ有スル人民ヲ以テ編制スルモノニ
シテ其人數ハ二百人ヨリ少カラズ六百人ヨリ多カラザルヘシ

第十三條 下會ノ長書記役及投票檢査人ヲ委任スレハ即チ下會ヲ編
制シタルモノトス

第十四條 下會ノ取締ハ下會自ラ之ヲ爲スベシ

第十五條 凡人ハ武器ヲ携ヘ下會ニ入ルヘカラズ

第十六條 撰任ノ所業或ハ投票ニシ或ハ存意ヲ高聲ニ述ルヲ以テ之
ヲ爲ス

第十七條 凡下會ハ孰レノ場合ニ於テモ撰任ノ爲メ格段ノ法式ヲ定
ムル能ハス

第十八條 投票ヲ以テ撰任セント思フト雖モ書ヲ知ラザルニ由テ
投票スル能ハサル人ノ存意ハ投票檢査人之ヲ質問スヘシ

第十九條 法律ニ就テノ投票ハ可否ノ二字ヲ以テ述フ

第二十條 下會ノ存意ハ左ノ文式ヲ以テ公達ス○何所ノ下會トシテ
集會スル國民ハ但幾人ニテ投票ノ何ノ過半ヲ以テ何事ヲ可トシ或

ハ否トス

第三十二條 佛蘭西國民ハ各年ノ五月一日撰任ノ所業ノ爲メ下會ニ集ルヘシ

第三十三條 下會ニ投票スルノ權ヲ有スル人ノ出席ノ多少ヲ問ハス前條ノ撰任ノ所業ヲ爲スベシ

第三十四條 下會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民全數ノ五分一ニテ定メタル期限ノ外非常ノ會議ヲ爲サンコトヲ願フキハ下會ヲ集ムベシ

第三十五條 前條ニ記シタル場合ニ於テハ非常ノ會議ヲ爲スヘキ所ノ邑官下會ヲ召集スベシ

第三十六條 下會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民全數ノ過半出席セサレハ非常下會ニ決議ノ權ナカルヘシ

第三十七條 下會ヲ編制スルノ國民ハ撰立人ヲ撰任スヘシ但下會ノ國民ハ出席スルトセザルトヲ論セス二百人ナレハ撰立人一人ヲ委任スヘシ三百一人ヨリ四百人ナレハ撰立人二人ヲ撰任スヘシ五百一人ヨリ六百人迄ナレハ三人ヲ撰任スヘシ

第三十八條 撰立會議ノ取締及撰任所業ノ手續キハ總テ下會ト同様ナリ

○佛蘭西一千七百九十五年

第十七條 下會ハ其區ニ住居シタル國民ヲ以テ編制ス但人ハ一年間住居スルニ於テハ區ニ住居スルモノトス又一年間區ニ在ラサル者ハ區ニ住居セサル者トス

第十八條 凡人ハ下會ニ代人ヲ差出スヘカラス且同事件ニ付數下會ニ於テ投票ヲナス能ハス

第十九條 各區宛少クモ下會一ヶ所アルヘシ一區ニ於テ數下會アルキハ各下會ニ於テ四百五十人ヨリ九百人マデアルヘシ但右人數ハ即チ出席スルトセザルトヲ論セス都テ投票ヲ爲スノ權ヲ有スル國民ヲ云ナリ

第二十條 下會八年ノ最モ長スル者ヲ上席人トシテ假ニ編制スヘシ年ノ最モ少キモノハ書記役ヲ勤ムヘシ

第二十一條 下會ノ長ト書記役及投票検査役三人ヲ委任セシニ於テハ下會ヲ編制シタルモノトス

第二十二條 投票ヲナスニ適スヘキ事件ニ付テ異論有キハ下會假ニ

其論事ヲ定ムヘシ但下會ノ決定ヲ州ノ下等裁判所ヘ控訴スルヲ得ヘシ

第二十三條 前條ニ記シタル場合ノ外下會ノ爲セシ撰立所業ヲ可トスルコトハ民選議院自ラ之ヲ爲ヘシ

第二十四條 凡人ハ武器ヲ携ヘ下會ニ入ルヘカラス

第二十五條 下會ノ取締ハ下會自ラ之ヲ爲ヘシ

第二十六條 下會ノ集會ハ左ノ場合ニ於テアルヘシ

第一 建國法改正議院ヨリ差進メタル建國法改正ヲ承諾シ或ハ拒辭スル爲ナリ

第二 建國法ニ於テ下會ノ役目ニ歸スル人撰ヲナス爲ナリ

第二十七條 毎年七月一日ニ至リ下會ニ集ルヘシ且場合ニヨリテ左

ノ官員ノ委任ヲ爲ヘシ

第一 撰立議會ノ議員

第二 居間裁判役及アツセソーニ役

第三 區ノ施政官吏及五十人以上ノ邑ニ於テノ邑官

第二十八條 前條ニ記シタル人撰終リシ後五十人以下ノ邑ニ於テ各邑官及邑官助役ヲ委任スル爲メ邑内議會ヲ爲ベシ

第二十九條 下會或ハ邑ノ議會ヲ論セス其召集ノ目的トナス事件ノ外爲セシ事又憲法ニ定タル法式ニ背キテ爲セシ都テノ事ハ効ナカルヘシ

第三十條 下會及邑ノ議會ハ憲法ニ於テ已レニ委托シタル撰任ノ所業ノ外孰レノ撰任ヲ爲ヘカラス

第三十一條 凡選任ノ所業ハ秘密ノ投票ヲ以テ之ヲ爲ベシ

第三十二條 孰レノ人ヲ問ハス投票ヲ賣買セシ者ハ如シ法式ニ從テ之ヲ証明スルハ本人下會及邑ノ議會ニ出席スルヲ二十年間禁スヘシ且同期限内孰レノ官職ニモ本人ヲ委任スヘカラス若シ人ハ其罪ヲ再犯セシハ此禁制ハ畢生間タルヘシ

第三十三條 凡下會ニ於テ選任スベキ選立人ノ數ハ其下會ニ投票スルノ權ヲ有スル人二百人アルハ一人ヲ選立スルヲ得ベシ但投票ノ權ヲ有スル人ハ其下會ニ出席スルトセザルトヲ問ハス右人數ヲ計算スヘシ投票ノ權ヲ有スル人ハ三百一人ヨリ五百人マテ有スルニ於テハ撰立人二人ヲ撰任スベシ投票ノ權ヲ有スル人五百一人ヨリ七百人マテアルハ撰立人三人ヲ撰任シ投票ノ權ヲ有スル人七

百一人ヨリ九百人マテアルニ於テハ四人ヲ撰任スベシ

第三十四條 撰立議會ノ議員ハ年々之ヲ撰任スヘシ且撰任シタルモ

ハ二年間ヲ過キシ上ナラザレハ再度撰任セラルベカラス

第三十五條 孰レノ人モ滿二十五歳ニ至ラス且佛蘭西國民ノ權ヲ執

行スルニ適當スヘキ諸件ノ外左ニ定タル件々ニ適セサレハ撰立人

トナルヘカラス

一 六千人以上ノ邑ニ於テハ二百日分ノ備貸ト均キ歳入ヲ生スヘ

キヲヲ評價シタル財産ヲ持チ或ハ百五十日分ノ備貸ト均キ歳入

ヲ生スヘキヲヲ評價シタル家屋ヲ借用シ或ハ二百日分ノ備貸ト

均キヲヲ評價シタル郊野ノ財産ヲ持ツベシ

一 六千人以下ノ邑ニ於テハ百五十日分ノ備貸ト均キ歳入ヲ生ス

ベキヲヲ評價シタル財産ヲ持チ或ハ右様ナル財産ノ入額所得ノ

權ヲ有スルヲ或ハ百日分ノ備貸ト均キ歳入ヲ生スヘキヲヲ評價

シタル家屋ヲ借用スルヲ或ハ百日分ノ備貸ト均キ歳入ヲ生スヘ

キヲヲ評價シタル郊野ノ財産ヲ借用スベシ

一 部野ニ於テハ百五十日分ノ備貸ト均キ歳入ヲ生スベキヲヲ評

價シタル財産ヲ持チ或ハ其入額所得ノ權ヲ有スルヲ或ハ二百日

分ノ備貸ト均キヲヲ評價シタル田産ノ代作人トナルベシ

一 國民一ハ一箇ノ財産ヲ持チ或ハ其財産ノ入額ヲ所得トナスノ

權ヲ有シ一ハ家ヲ借住シ或ハ田産ノ代作人ナルハ其撰任スヘ

キヤ否ヤヲ定ルニ撰任スヘキ爲メ要スル財産歳入ノ總高ニ至ル

マテ其財産ノ歳入及田産ノ歳入ヲ合算スベシ

第三十六條 各州ノ撰立議會ハ毎年ノ四月九日ニ集會スヘシ且十日ヲ過クヘカラスシテ下會席ニ總テ爲スヘキノ任選ヲ成就セサルヲ得ス但議會ハ其任選ノ所業ノ中巳ノ集合ヲ延期スヘカラス且其所業終リシ上當然解放スヘシ

第三十七條 撰立議會ハ巳レニ委托シタル任撰ノ所業ノ外孰レノ事モ管スヘカラス又孰レノ願書ヲ受取り或ハ送付シ或ハ孰レノ國民ノ願書或ハ總代ヲ受ケ或ハ送ルヘカラス

第三十八條 撰立議會ハ相互ノ往復ヲ爲ヘカラス

第三十九條 撰立議會ニ参加セシ孰レノ國民モ撰立人ノ位名ヲ用ヒ或ハ巳ト共ニ右議會ニ参加セシ他ノ國民ト集合シテ右ノ位名ヲ用ユヘカラス此箇條ヲ犯スコハ總國民ノ保護ニ對シテノ罪トス

第四十條 下會ニ管シタル前編ノ第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十九條第三十條第三十一條及第三十二條ハ選立議會ニモ通シテ用ユヘシ

第四十一條 選立議會ヨリ場合ニヨリテ選任スヘキモノハ左ノ者ナリ

- 第一 民選議院ノ内所謂五百員議院ノ議員
- 第二 覆審裁判所ノ裁判役
- 第三 最上陪審
- 第四 州知事
- 第五 重輕罪裁判所長公ノ原告官及書記役
- 第六 民事訴訟裁判所ノ裁判役

第四十二條 國民ハ死去シ或ハ自己ノ願ヒニ依テ免職サレ或ハ政府ヨリ免黜サル、ニ於テハ其代トシテ選立議會ヨリ選任スル者ハ其官員退役ノ節勤ムヘキ残り期限丈ケ撰任スヘシ

第四十三條 行政首官ヨリ各州ノ知事ノ側ニ出張セシムル名代ハ選立議會ノ開席及閉席ヲ直ニシレクトワル、エグゼクチヴニ報知スヘシ此ヲ直ニ報知セサル名代ハ免黜スベシ 督理官ノ名代ハ選立議會ノ所業ヲ仮リニ差留メ或ハ全ク廢止スル能ハス又其集會所ニ入ルヘカラスト雖モ各議席終シ後二十四時間ニ其商議ノ調書ヲ視示セシムルノ權アリ且其議會ヨリ建國法ヲ犯スニ於テハ名代人之ヲシクトロルニ報知セサルヲ得ス○孰レノ場合ニ於テモ撰立議會ヲ任撰スル所業ヲ許可スルコトハ民選議院ノミ之ヲ決定ス

○佛蘭西一千八百〇二年

第一條 各治安裁判役ノ管轄地ニ付テ一區議會有ルベシ

第二條 各郡ニ於テ即チ各州副長ノ管轄ニ於テ郡ノ郡ノ撰立議會一箇所有ルベシ

第三條 各州ニ於テ州ノ撰立議會一箇所有ルベシ

第四條 區ノ議會ハ都テ區ニ住居シ且郡ノ邑民連名書ニ記名シタル國民ヲ以テ編制ス○建國法ニ從テ邑民連名書變改スベキ時ヨリ區ノ議會ハ都テ區ニ住居シ且國民ノ權ヲ有スル國民ヲ包含スベシ

第五條 第一等ノ宰相ハ區ノ議會ノ長ヲ委任ス右長ハ五年限リ委任サル、ト雖モ何度ニテモ復任サル、ヲ得ベシ檢査官四人ハ議會ノ

長ヲ輔佐スヘシ右四人ハ區ノ議會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民ノ
内撰舉ス可キ者ニシテ二人ハ其國民ノ内最モ年長ノ者ニシテ他ノ
二人ハ最高稅ヲ上納スル者ナリ○議會ノ長及檢査官四人ハ議會書
記役一人ヲ撰任スヘシ

第六條 區ノ議會ハ已レニ歸スル處ノ用務ヲ取扱フタメ諸課ニ分ル
初テ各區ノ議會集マルルハ其職制及議式ハ政府ノ爲シタル規則書
ヲ以テ之ヲ定ベシ

第七條 區ノ議會ノ長ハ課長ヲ委任ス課長ノ役務ハ其課ノ會議ト共
ニ終ル各課長ハ檢査官兩人之ヲ輔佐スベキ者ニシテ右ノ内一人ハ
其課ノ議會ニ投票スルノ權ヲ有スル國民ノ内年長ノ者ナリ他ノ
一人ハ最高稅ヲ上納スル者ナリ

第八條 區ノ議會ハ國民兩人ヲ薦メ第一等ノ宰相コソシハ右兩人ノ内治安
裁判役一人ヲ任ス又治安裁判役ノ代役ハ欠役毎ニ右同様ニ兩人ヲ
薦ム可シ

第九條 治安裁判役及其代役ハ十年限リ之ヲ委任ス

第十條 五千人以上ノ都府ニ於テハ區ノ議會ハ邑院議員ノ欠員スル
毎ニ各欠員ノ爲メ兩人ヲ薦ム治安裁判官兩人以上或ハ區ノ議會兩
名以上有ル都府ニ於テハ各議會ハ右同様邑院議員ノ各欠員ノ爲メ
兩人ヲ薦ムベシ

第十一條 邑院ノ議員ハ區ノ人民ノ内最モ多キ稅額ヲ納ムル百ノ連
名書ノ内ヨリ之ヲ選舉スベシ但此連名書ハ州長之ヲ檢定シ且之ヲ
出版セシム

第十二條 邑院ノ議員ハ十年毎ニ之ヲ改選スベシ

第十三條 第一等ノ宰相シヤクハ邑長及同輔官ヲ邑院ノ内ヨリ撰擧シ且五

年限リ之ヲ任ス右邑長及輔官何度ニ限ラズ復任サル、ヲ得ベシ

第十四條 區ノ議會ハ郡ノ議會ノ爲メ議員ヲ選任スベシ其撰任ス可

キ人ノ數ハ已ノ議員ノ多少ニ應シテ定ム

第十五條 區ノ議會ハ已ノ爲メ定タル人數ニ限リ州ノ議會ノ爲メ議

員ヲ撰任ス可シ但右ノ撰任ハ後編ニ説明スベキ連名書中ヨリ爲ス

第十六條 撰立議會ノ議員ハ其屬スル所ノ議會ノ所在ノ郡州ニ住居

セサルヲ得ス

第十七條 政府ハ區ノ議會ヲ召集シ其集會ノ目的及期限ヲ定ム

第十八條 各郡ノ撰立議會ハ其郡ニ住居シタル五百人毎ニ議員一人

有ルベシ尤モ議員ノ數ハ百二十人以上二百人以下タルベシ

第十九條 州ノ撰立議會ハ州内ニ住居シタル千人毎ニ議員一人有ル

ベシ尤モ議員ノ數ハ二百人以上三百人以下タルベシ

第二十條 撰立議員ハ終身委任スルヲナリ

第二十一條 撰立議會ノ議員ハ汚辱ノ所業或ハ國事犯ノ所業ヲ爲セ

シコト政府ニ報告スルキハ政府ハ右ニ付テ其議會ヲシテ己ノ存意

ヲ陳ベシメ議會ノ議員ノ四分ノ三以上其本人ヲ免職スベキコトヲ決

セザレハ之ヲ免職ス可カラス

第二十二條 撰立議會ノ議員ヲ免職スベキ場合ハ國民權利ヲ失フベ

キ爲メ定タル法律ノ場合ト同様ニ之ヲ爲ス可シ又三回ノ議席ニ續

テ出席セズ且其欠席ノ爲メ適實ナル事情無キ時ハ免職スベシ

第二十三條 第一等ノ宰相ハ各會席ノ爲メ撰立議會ノ長ヲ委任スベシ撰立議會集リシ上議會ノ長ノミ其議會ノ取締ヲ爲スヲ得可シ

第二十四條 撰立議會ハ各會席ニ検査官二人及書記役二人ヲ任ス可シ

第二十五條 州ノ撰立會議ヲ編制スルニハ各州ニ於テ州民ノ内地稅借家稅著物稅及職業免許稅ノ割付書ニ從テ最上ノ稅高ヲ納ムル六百人ノ連名書ヲ作ルベシ經濟卿其名簿ノ成作ニ注意スベシ其住居スル處ノ州ノ外共和國內他ノ州ニ或ハ屬國ニ於テ稅ヲ納ムルコトヲ證明スルニ於テハ其納ムル稅ノ總高ヲ計算スルニ州ノ内外トモ納ムル諸稅ヲ加フベシ右ノ連名書ヲ出版スベシ

第二十六條 區ノ議會ハ右連名書ニ記名シクル國民中ヨリ其州ノ撰

立議會ニ委任セントスル國民ヲ選舉ス可シ

第二十七條 第一等ノ宰相ハ郡ノ選立議會ノ議員ニ勳社ニ加入シタル者或ハ國家ノ爲メ功ヲ顯ハセシ人ノ内ヨリ選舉シタル者ヲ十人増加スルヲ得可シ又州ノ選立議會ノ議員ニ二十人ヲ増加スルヲ得ベシ其二十人ノ内十人ハ州ノ人民ノ内最上ノ稅高ヲ納ムル人ノ内ヨリ選ヒ他ノ十人ハロシヨンドノルニ加入シタル者或ハ國家ノ爲メ功ヲ顯ハセシ人ノ内ヨリ選舉スベシ但右ノ委任ノ期限ハ別段ニ定メサレバ第一等ノ可シシユルハ隨意ニ之ヲ爲スヲ得可シ

第二十八條 郡ノ選立議會ハ其郡民議院ノ一員欠ル毎ニ郡ニ住居シタル國民中ヨリ選舉シタル國民兩人ヲ第一等ノ可シシユルニ薦ムベシ右ノ兩人ノ内少クモ一人ハ共薦ム郡民議院ハ三年毎ニ其議員

ノ三分一ヲ改選スベシ

第二十九條 郡ノ選立議會ハ集ル毎ニ第一等ノ民選議院ノ議員選舉
ス可キ處ノ連名書ニ記名セシメントスル國民兩人ヲ薦ム可シ但右
兩人ノ内少クモ一人ハ其薦ムル議會ノ議員ノ外ヨリ選任スヘシ且
兩人共州地ノ外ニ選舉スルヲ得可シ

第三十條 各州ノ選立議會ハ其州民議院ノ議員ノ欠役スル毎ニ州地
ニ住居シタル國民ノ内兩人ヲ選舉シ右役ノ爲メ之ヲ第一等ノ宰相
ニ薦ムヘシ右兩人ノ内少クモ一人ハ其外ヨリ選任スヘシ○州民議
院ハ五年毎ニ其議員ノ三分ノ一ヲ改選スヘシ

第三十一條 州ノ選立議會ハ集ル毎ニ元老議員ヲ委任スルタメ用ユ
ル連名書ニ記名セントスル國民兩人ヲ薦ムヘシ右兩人ノ内少クモ

一人ハ其外ヨリ選任セザルヲ得ス且兩人共州地ノ外ニ選舉スルヲ
得ヘシ但右兩人ハ建國法ニ於テ元老議員ノ役ヲ勤ムルヲ得ヘキタ
メ定タル年齢ヲ有スヘシ

第三十二條 州及郡ノ選立議會ハ民選議員ヲ選任スル爲メ用ユベ
キ連名書ニ各記名セントスル兩人ヲ州地ニ住居シタル國民ノ内
ヨリ選舉シ薦ム可シ右四人ノ内少クモ兩人ハ其薦ムル議會ノ議員
ノ外ヨリ選任スベシ各州郡ヨリ右ニ從テ薦メタル國民ノ名ヲ集メ
テ以テ作りシ連名書ニ記名シタル人數ハ其欠役ノ數ノ三倍ナル可
シ

第三十三條 凡區ノ選立議會ノ議員及郡或ハ州ノ選立議會ノ議員ノ
役ヲ兼勤スルヲ得ベシト雖モ郡ノ選立議會ノ議員ト州ノ選立議會

議員トノ役ヲ兼勤スルヲ得ズ

第三十四條 民選議院及第一等ノ民選議院ノ議員ハ其己ノ所屬ノ選

立議會ノ議席ニ出ヅ可カラスト雖_レ右ノ外孰_レノ官員ハ己ノ屬ス

ル選立議席ニ出デ且投票スルヲ得可シ

○佛蘭西一千八百十五年

第二十七條 州郡ノ選立議會ハ千八百三年八月五日附元老院ノ決定

書ニ從ヒ今迄ノ通り續ヒテ在ル可キト雖_レ左ノ規則ヲ以テ之ヲ變

改スルナリ

第二十八條 各區ノ議會ニ於テ毎年新規ナル選任ヲ爲シ其前年ニ選

立議會ノ議員中ニアル所ノ欠員ヲ充ツ可シ

第二十九條 千八百十六年以後各州撰立議會ニ於テ皇帝ヨリ撰舉シ

タル上院ノ議員一名上席ス可シ右ハ終身ニ任ス可キ者ニシテ之ヲ

免職スル能ハス

第三十條 前條ニ定タル期限ニ至リ各州ノ撰立議會ハ郡ノ撰立議會

ノ長并ニ兩人ノ副長ヲ任ス可シ之ヲ爲スヲ得ベキ爲ニハ州ノ撰立

議會ハ郡ノ撰立議會ヨリ十五日前ニ集マル可シ

第三十一條 州郡ノ撰立議會各別紙一號ノ決定書并ニ數表ニ己ノ爲

メ定タル處ノ數ニ應シ多少ノ代議者ヲ撰任ス可シ但右決定書并數

表ハ原文ニアラス

第三十二條 凡代議者ハ孰_レノ所ニ限ラス全國中ノ人民ノ内ヨリ撰

舉スルヲ得可シ然ル處州或ハ郡ノ撰立議會如シ州或ハ郡ノ土地ノ

外代議者一人ヲ撰舉シタル時ハ代議者ノ代席人一名ヲ任シ且之ヲ必ス州或ハ郡ノ土地内ニ撰フ可シ

第三十三條 百工并ニ手造貿易ノ所業ヲ營ム所ノ人民ノ爲メ格別ノ代議者ヲ任ス可シ工商民ノ代議者ノ撰任ハ百工評議局ト貿易評議局ト合一ニ會議シテ設立シタル名簿ニ基キ任セラルハヲ得可別紙第二號ノ決定書并ニ數表ニ從テ各州ノ選立議會ヨリ之ヲ爲ベシ

○佛蘭西 一千八百四十八年

第七十八條 州民議院區民議院邑民議院等ノ編制及事務章程并ニ邑長副長トノ委任ノ方法ハ追テ法律ヲ設ケ之ヲ定ム可シ

第七十九條 州民議院并ニ邑民議院ノ議員ハ其州其邑ノ地ニ住居ス

ル處ノ總ノ國民直ニ投票ヲ以テ之ヲ撰任ス但各區ハ州民議院ノ爲メ議員一人ヲ撰任スベシ州ノ名州ト巴黎府并ニ萬一人以上ノ市街ニ用ユ可キ處ノ撰任ノ方法ハ追テ格別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第八十條 州民議院區民議院邑民議院等ハ共和政治統領國議院ノ許可ヲ得テ之ヲ解散スルヲ得可シ右ヲ解散スル時更ニ其議院ヲ編制スル爲メ選任ノ所業ニ着手ス可キ時間ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム可シ

○普魯西

第一百五條 普魯西國ノ邑區部ノ總代及政治ハ別法之ヲ定ム佛國ノ北ルノ前ニ當テ普魯西全國計ノ八部二十五州三百三十二區トス部ニ部長アリ一部中ノ豪族材學アル者ヲ擇フ州會ヲ監シ權限ノ爭ヲ決

シ州治ニ逆テ訴フル者ヲ裁判シ陸軍鎮將ト往復シ凡一部ノ事ヲ總
 へ毎年部内ノ事狀ヲ參議院ニ公報ス部會ハ部中ノ豪族地主及府市
 ヨリ推撰スル所ノ代議士ニシテ六年一任三年ゴトニ其半ヲ新撰ス
 部中ノ利益ニ就キ法章ノ案ヲ議シ以テ大議院ニ進ムルニ供ヘ部中
 ノ獻言請疏部會ニ進ムル者ヲ議決シ一部ニ屬スル施濟諸院ヲ管治
 シ稅額ヲ諸州ニ分賦ス二年ニ一會ヲ開ク國王ノ委員王ノ名ヲ以テ
 徵聚シ及開閉シ及議案ヲ付ス但議會ニ列セズ大抵部長委員ノ事ヲ
 行フ議長ハ國王ヨリ命ス○一部分テ二州或ハ三州トス州ヲ治ムル
 者ヲ州議官トス州議官ハ國王撰任ス分テ數課トス内務宗教學校直
 稅官地官林等是ナリ各課議ヲ發シ合員總會ヲ以テ之ヲ決ス議長ハ
 其所屬吏員ヲ總ヘ又議會ニ向テ格議ノ權ヲ有ス議長及各議ハ毎年
 州内ヲ巡行シテ議決セル條規ノ行否ヲ視ル州長ナク又州會ナシ蓋
 シ州ハ部及區ノ各歲計ヲ定メ無形人身ノ權アル者ト同カラズ○部
 分テ區トス三百三十二區一區ノ大サ大抵佛國ノアロンダスマシニ
 同シ區長ハ區會ヨリ名ヲ薦メテ政府ヨリ任命ス地方ノ名望往々舊
 執政ノ類ヲ以テ之ニ任スル者アリ一區ノ行政官トシテ權任甚重シ
 區長ヲ輔佐スル者一ヲ書記官トス國王之ヲ任ス一ヲ區撰員トス區
 會ヨリ推撰ス區會ハ區内ノ貴姓地主即チ部會議士ノ撰舉人タル者
 及邑會中ニ推撰シタル府市ノ代議人邑長ノ中ニ推撰シタル
 村邑ノ代議人タル者ヲ以テ成ル或ハ終身任トシ或ハ六年一任トス
 各地同カラズ區長ハ毎年一次以上必ス區會ヲ徵聚ス區會ノ權任ハ
 區長ヲ推薦シ區會撰員二人ヲ撰舉シ租稅ノ分賦區費課稅ノ議區統

計ノ檢査區費ニ任カス官吏ノ撰任國王ニ獻スル意見ノ評議及發行
 等はナリ區會ノ議決ハ州議官ノ許可ヲ經テ區長之ヲ施行ス○邑制
 ハ千八百五十年部州區ト共ニ全國同一ナルベキヲ公布シタリシ
 ニ實際行ヒ難キヲ以テ千八百五十三年其法ヲ廢シ各地各制其便宜
 ニ適セシム全國ノ邑制約メ七類ヲ得府邑ハ大抵民撰ノ邑長副邑長
 統治シ邑會之ヲ匡輔ス凡邑長副邑長ヲ選フハ部長ノ批可ヲ要ス其
 可トセサル者ハ別ニ擇フ邑長副邑長ハ官俸ヲ受ケ一邑ノ行政權ニ
 居リ政府ニ向テハ邑ノ代人トナリ邑ニ向テハ政府ノ代人トナル邑
 會ヲ徵集シ邑計ヲ構案シ邑則ヲ起草シ邑中館宇ヲ監司シ邑費ヲ支
 配シ邑產ヲ管理シ邑吏ヲ任命スル等ヲ掌ル邑會議員ハ六年一任ト
 シ每二年其三分ノ二ヲ更撰ス或ハ邑長其議長ヲ或ハ別ニ議長ヲ
 推選ス邑會ノ權甚廣シ隨意ニ邑計ヲ議定シ邑稅ヲ收ムルヲ得但
 邑地ノ轉賣ニ付テハ部會ノ批許ヲ要スルノミ其它村邑ノ制ニ至テ
 ハ東西各地懸カニ均一ナラス仍ホ中古ノ舊制ヲ存スル者多シ蓋シ
 政ヲ執ル者漸ヲ以テ
 改ント欲スルナリ

○澳地利

第一章第一條 安斯河東澳地利部ニ於テ凡該部ノ政務ハ州會之ヲ代

理ス

第二條 州議員ニ與ヘタル權理ハ州會若クハ掌事官之ヲ執行スヘシ

第三條 州會ハ議員六十六名ヲ以テ成ルコト左ノ如シ

第一 維也納ノアルシウエー^長大教^長カインボルタ^長レノ^長ウエー^長各一名

各一名

第二 維也納府ノ大學費長一名

第三 公撰ノ議員六十三名其撰任ノ方法左ノ如シ

甲 土地ヲ富有スル議員十五名

乙 撰舉條例ニ由テ指定シタル都鄙ノ議員及商工事務局ノ議員

合テ二十八名

丙 其他安斯河東澳地利部ニ屬スル邑ノ議員二十名

第四條 皇帝ハ議員中ヨリ議長及副議長ヲ撰テ州會ヲ指揮セシム

第五條 選舉條例ハ撰舉人及被撰人タルガ爲ニ何如ナル約款ヲ踐行

スベキヤヲ確定シ更ニ限域スベキ選舉區ニ議員ノ配當及撰舉ヲ行

フノ方法ヲ定ム

第六條 州會ノ議長副議長ノ任期及議員ノ權任ハ限リテ六年トナス

○州會議員ノ選舉ハ選舉人之ヲ廢止スルコトヲ得ス○州會成規ノ任

期盡キタル時期未タ滿ザルニ散會スルノ後又議員ノ罷職若クハ死

沒ノ時及議員タルガタメニ須要ナル分限ヲ失フ時ハ新ニ其撰舉ニ

從事ス○前任ノ州會議員ハ再ビ其選ニ當ルコトヲ得

第七條 州會ニ選舉セラレタル議員ハ訓狀ヲ承クルコトヲ得ス宜ク親

ヲ公評ノ權ヲ執行スベシ

第八條 皇帝ノ命ニ因リ召集スル州會ハ必ス毎歲一回ツ、會合スベシ、但會議ハ維也納府ニ開クベシ、然レ皇帝ノ特命アルキハ格別ナリトス

第九條 議員ハ其職ニ就ク時皇帝ニ忠誠ヲ盡シ恭順ヲ致シ法律ヲ遵奉シ義務ヲ踐行スルコトヲ約スベシ○此約ハ議長ニ對シテ宣誓スヘシ

第十條 議長ハ皇帝ノ召集シタル州會ヲ開キ會議ニ上席シテ論議ヲ指揮ス○議長ハ州會其職掌ヲ終フルノ後又皇帝ノ詔旨ニ由リ州會ノ閉會ヲ命ス○州會ハ會期間ト雖レ皇帝之ヲ散解スルコトヲ得、然レ同時ニ新ニ議員選舉ヲ命スヘシ

第十一條 施政及行法ノ理事職ニ任スル掌事官ハ議員中ヨリ選舉シ

タル者六名ヲ以テ成ル而シテ州會ノ議長之ニ上席ス○議長ハ其不在ノ時、掌事官中ヨリ親ヲ補官ヲ選ミ會議ヲ指揮セシム

第十二條 豪富ノ選舉會ノ推選シタル議員ハ同僚一名ヲ選テ掌事官ニ任スベシ○都鄙選舉會并ニ商工事務局選舉會ノ選命シタル議員及邑選舉會ノ選派シタル議員モ亦各其一名ヲ掌事官ニ選ブベシ○其他ノ掌事官三員ハ別ニ全州會中ヨリ選舉スベシ○凡選舉ハ各公評人ノ過半数ヲ得ヘシ投票二回ニ及ト雖レ猶未公評ノ過半数ヲ得サル時ハ第二回ノ投票ニ於テ票數ヲ得ルコト最多キ被選人二名ノ一ヲ更ニ投票スベシ此時得ル票數同キ時ハ抽籤ノ法ヲ用ヒテ取捨ヲ定ヘシ

第十三條 前條ニ定タル方法ニ循ヒ掌事官各一名ニ補官一名ヲ選ベ

シ○會期ノ時間ニ掌事官員死没シ罷職シ又久ク職務ニ與カルヲ能
ザル時ハ選^{セツシヨシ}レテ之ガ補官タル者ヲシテ本官ノ職ニ任セシムベシ○
州會ノ開會スル場合ニ於テハ掌事官ノ缺員ヲ填補スルタメ新ニ選
舉ニ從事スベシ

第十四條 正補掌事官ノ任期ハ之ヲ選舉シタル州會ノ任期ニ同シ然
レ舊州會ノ權任盡タルノ後并ニ其散會ノ場合ニ當リ新州會ノ更ニ
掌事官ヲ選命スルノ日ニ至ルマテ舊掌事官ノ任期ヲ延ス○州會ヲ
退キタル議員ハ亦掌事官ヲ止ムベシ

第十五條 掌事官員ハ維也納府ニ住居スベシ掌事官ハ歲俸ヲ國庫ニ
受ク但其金額ハ州會ニ於テ之ヲ定ム

第二章第十六條 州會ハ千八百六十年十月二十日勅裁ノ成規ニ循ヒ

立法權ノ受用ニ任ス又州會ハ帝國議會ノ憲法第六條ニ掲クル定數
ノ議員十八名ヲ帝國議會ノ下院ニ選派スベシ○下院ニ派遣スヘキ
議員ノ選舉ハ帝國議會ノ憲法第七條ニ定ル方法ニ準シテ施行スベ
シ○部屬邑郷ニ對シ下院ニ選派スル議員ノ配當ハ増補律例ニ於テ
之ヲ定ム

第十七條 州ノ利益ニ關スル法案ハ政府ノ起議ノ式ニ於テ州會ニ附
スベシ○州會モ亦州ノ利益ニ關スル法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス○
起議ニ法律ノ力ヲ與ルニハ州會ノ承認ト皇帝ノ制可トヲ必要トナ
ス○既ニ皇帝若クハ州會ノ斥タル法案ヲ一會期間ニ起議スルト一
回ニ及トヲ得ザルベシ

第十八條 左ニ擧グル者ヲ州會ノ權任トナス

第一 農業公費ヲ以テ築營修補スル公有ノ堂屋凡テ公費ヲ給スル施濟舎及州ノ會計局ノ收入公益ノタメニスル決算表及決算表ニ關スル總規則

第二 邑務寺務學校事務豫備ノ馬匹徵募軍兵ノ糧食屯營ニ關スル通法ニ含ル特殊ノ規則

第三 其他特別ノ命令ニ由リ州會ニ下附スベキ州ノ福祚需要ニ關スル事務ノ規則

第十九條 州會ハ左ノ法規ニ於テ意見ヲ述ベ及起議書ヲ作ベシ

第一 本州ノ福祚ト特ニ相關涉スル者ニシテ既ニ公布シタル一般ノ法律規則

第二 本州ノ需要スル所ナルヲ以テ請求スルニ因リ公布ニ及ベキ

一般ノ法律規則

州會ハ政府ヨリ之カ意見ヲ述ルコトヲ求ムル事務ニ於テ起議書ヲ作ベシ

第二十條 州會ハ州ニ屬スル特別ノ財産其原因若ハ其所用ニ循ヒ安斯河東澳地利部ノ所有ニ屬スル公有ノ財産及各個若クハ公共ノ資本ニ因リ設置シ又贈遺シタル財産并ニ建物ノ保存ヲ看守スベシ○公有財産ノ賣與又公有財産ニ永久ノ責任若クハ書入質ヲ生スベキ州會ノ決定ハ宜ク皇帝ノ制可ヲ仰グベシ

第二十一條 州會ハ州ノ有ニ屬スル特別ノ資本州ノ用途金并ニ州ノ逋債ヲ管理シ及州ノ責任スル義務ノ踐行ヲ看守ス○州會ハ諸資本ノ所用ヲ定ル條規ニ確準シ州ノ資本及安斯河東澳地利部ノ逋債還

償金及地稅ノ免除金 不當ニ若クハ過分ニ收徵スルニ因リ還附スベキ餘剩ノ税金ヲ云 ヲ管理享用ス

第二十二條 州庫通常ノ歳入充足セザル時州會ハ州ノ金庫及建物ニ須要ナル財本ヲ得ルノ方法ヲ論議決定ス○是故ニ州會ハ現在ノ租稅百分ノ十二至ルマデ増稅ヲ課スルコトヲ得直稅及其他ノ租稅ニ本稅百分ノ十ヨリ多キ増稅ヲ課スルニハ皇帝ノ制可ヲ必要トナス

第二十三條 邑務ニ關スル州會ノ施爲ハ邑法若クハ特別ノ邑規ニ因テ之ヲ定ム

第二十四條 租稅ニ關シ就中州ノ直稅ノ收徵及其享用ニ係リ州會ノ行フベキ施爲及監察ハ特別ノ條規ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 州會ハ掌事官ニ隸屬スル官吏若クハ施政務ニ任スル官

吏ノ設置及其俸給ヲ定ム○又州會ハ此等官吏ノ任命規律退老及恩賜金ヲ決シ及其訓條ニヨリテ官吏ノ職務ヲ定ム

第二十六條 掌事官ハ州ノ金庫財産及建物ノ通常施政務ニ任シ大小ノ屬吏ヲ指揮監督ス○掌事官ハ右ニ掲ケタル職事及其決定書ノ執行ヲ州會ニ具陳ス及或ハ州會ヲ招請シ或ハ親ラ州會ニ關スル起議ヲ評論ス

第二十七條 州若クハ昔時ノ州議院ニ屬スル保護ノ權 小族ヲ監及權薦ノ權 職ヲ去ル時已レニ代ル 僧官叙任ノ權地方ノ建物ニ入舍免許ノ權 施濟舍ニ留養スルコトヲ許スノ類 ハ掌事官之ヲ施行スベシ

第二十八條 掌事官ハ凡裁判ノ事ニ於テ州會ヲ代理ス

第二十九條 州會ノ決定書ニハ議長及掌事官二名手署シテ州印ヲ捺

スベシ

第三十條 掌事官ハ凡テ昔時ノ州議院ノ職トスル事務ヲ掌ルベシ但之ヲ他ノ施政官ノ職務ニ屬セズ又州ノ構制ヲ變革スルニ因リ現今目途ナキ事務ニ限ル

第三十一條 掌事官ハ州會ノ會期ニ於テ必要ナル備辦其會議ヲ開クニ定タル場所及州會ニ直隸スル寮局ノ諸器具及其修理ヲ看守スベシ

第三十二條 特別ノ邑法及租税法ニハ掌事官ニ委任シタル事務之ヲ處分スルノ方法及邑務ト租稅務トニ於テ掌事官ノ施爲ニ係リ更ニ詳精ナル條規ヲ并セ記スベシ

第三十三條 法ニ循ヒ召集シタル州會ハ會議ヲ開キテ其權任

千二十八

トスル事務ヲ論議決定ス○會議ハ議長之ヲ報告開閉ス

第三十四條 州會ノ會議ハ公行トス然レ議長若クハ議員五名以上ノ請求ニ因リ聽衆ヲ遠クルノ後州會ニ於テ可ト決スル時ハ秘密會議ヲ開クヲ得

第三十五條 第一議長ヨリ示シタル政府ノ起議第二通常掌事官若クハ會期間ニ州議員中ヨリ選ミタル特設掌事官ノ起議第三諸議員ノ起議ニ因テ諸件ヲ州會ノ議ニ附ス

第三十六條 政府若クハ掌事官ノ起議ト相關係セザル議員ノ起議ハ豫メ文書ヲ以テ之ヲ議長ニ通告シ豫メ掌事官ノ調査ヲ受ベシ○議長ハ州會權任外ノ事務ニ係ル起議ヲ斥ベシ

第三十七條 議長ハ論議スベキ事務ノ順次ヲ指定ス但政府ノ起議ハ

千二十九

最先ニ討論決定スベシ

第三十八條 安斯河東澳地利部ノ知事若クハ其代理委員ハ州會ニ入
リ何時ニテモ發議スルコトヲ得該知事及委員ハ其州會議員ノ列ニ在
ル時ヲ除クノ外公評ニ參スベカラス○政府ノ名ヲ以テ案據若クハ
説明ヲ得ンガタメニ政府官員ノ出席ヲ必要トシ又之ヲ欲スル時議
長ハ出席ヲ求ムベキ官員ノ長ニ通報スベシ

第三十九條 凡決ヲ擧グルニハ州會ノ議員半數以上ノ出席ヲ必要ト
ス其決定ヲ確的ノ者トナスニハ公評ノ過半數ヲ得ベシ○論議兩立
スル時ハ其起議ヲ廢スベシ○州法ノ修正ヲ決定スルニハ少クモ議
員四分ノ三出席シタル議員三分ノ二ノ承認ヲ得ルヲ必要トス

第四十條 公評ハ言辭ヲ以テス然モ州會ハ其議長ノ意見ニ循ヒ起坐

ノ法ヲ用ヒテ公評スルコトヲ得○選舉及任命ヲ行フニハ公評ノ投箋
ヲ以テス言語起坐ノ法ヲ行ハザルヲ云

第四十一條 州會ノ決定書及會議ノ調書ハ州知事ヨリ皇帝ニ上奏ス
ベシ○州會ハ親ヲ其論議公布ノ方法ヲ決定ベシ

第四十二條 州會ハ他州ノ州會ト相往來シ及檄書ヲ公頒スベカラズ

州會委員○州會ヨリ送附スル一ニノ事件州會委員
ヲ規定スルニ任スル議會ナリハ州會ノ集議ニ參スルコ

ト許サス又州會ノ議員ヨリ出スノ外上言書ヲ收受スベカラス○州
會ハ豫メ勅許ヲ得タルノ後ニ非レハ使員ヲ皇帝ニ送ルヲ得ス

第四十三條 總掌事官ハ之ニ送附ヲ受タル事務ヲ論議決定スルガタ

メニ集會スベシ○其決定ヲシテ確的トナスニハ少クモ掌事官四員
ノ出席ヲ必要トス○議長ハ掌事官ノ決定ヲ以テ公益ニ戻リ若クハ

定法ニ違フト酌量スル時其決行ヲ停閣シ州知事ヲ經由シテ其決裁
ヲ皇帝ニ仰クノ權義ヲ有ス

第四十四條 掌事官ハ獨リ其選舉ヲ受タル州會ト相往來スルヲ得
ルノミ又掌事官ハ其委任セラレタル施政務ヲ除クノ外命令書ヲ公
布スルヲ得ス○掌事官ハ州會委員ヲ承受スルヲ得ズ

○白耳義

第三十一條 各邑各州ノ利益ハ建國法ニ定タル元則ニ從ヒ
會州會ニ由テ之ヲ議定ス

第一百八條 州及邑ノ制度ハ法章之ヲ定ム
白耳義ノ法州ノ下ニ邑アリ略佛國ノ制
ニ同シ州ニ州會アリ州委員六員州知事一員大書記一員州會ハ州民
ノ擇フ所ニシテ其權任ハ曰際訴訟ノ評事官裁判所ノ長官副長官ノ

應選人名ヲ備シ來年ノ歲額ヲ投票ス曰州屬吏員ノ俸給及養料ヲ定
ム曰州債及州產ノ賣買貿易ヲ許否ス曰道路河渠ノ築造ヲ決ス曰各
邑ニ直稅均賦ス曰賦稅減免ノ願ヲ決ス曰一州內治ノ條例及警察
條例ヲ作ル以上數件ニ就テ其公議建及州會自ラ其中ノ六員ヲ選ヒ一
造ハ特ニ國王ノ認可ヲ要ス州行事ハ州會自ラ其中ノ六員ヲ選ヒ一
任四年毎二年其三員ヲ更選ス俸給アリ州委員ノ首長ヲ州知事トス
州委員ノ權任ハ曰一州ノ內治諸件ニ付キ及法章ノ施行其意見ヲ要
スル者ニ付キ及州知事ノ求ニ付キ評議ス曰訟事ニ付キ一州ノ總代
タリ曰州會會時ノ外州會ニ於テ決議スヘキ事件其緊急ニ係ル者ハ
權ニ之ヲ議決ス但歲計選任薦名事件ハ事重ヲ以テ例ニアラス州知
事ハ政府ノ名代トシ州會若クハ州委員ノ議ヲ取ルヘキ事件ノ議
案及州會州委員議決シタル事件ノ施行ヲ掌リ三十日間議決ノ施行
ヲ格メテ行ハサルヲ得一州內ノ平治ヲ保持シ法ニ循テ警兵民兵
ヲ用フ○每區區使一員アリ州知事及州委員ノ下ニ屬シ村邑人口五
十以上ノ府市ヲ除クノ管治ヲ監シ各邑ノ邑庫ヲ檢シ諸公館ヲ查ス
○每邑邑會アリ邑會ハ議員數人邑長及邑長補助官ノ集リナリ邑議
員ハ邑民ノ擇フ所ニシテ國王邑議員ノ中ニ就テ邑長及補助官ヲ選
任ス但國王ハ州委員ノ意見ニ依リ邑議員ノ外ニ邑長ヲ采ルヲ得
一邑人口ノ多少ニ隨ヒ補助官二人若クハ四人ヲ置ク邑長邑議員
ノ助官共ニ六年一任トス邑長及補助官ハ其怠慢不正アル者ハ州委員
ノ詳明ナル意見ニ依リ州知事之ヲ免シ若クハ職ヲ停ムルヲ得邑

會ノ權任ハ凡邑内利益ヲ議定シ邑長臨視ノ下ニ詳決ス其大事ハ州委員ノ承諾ヲ取リ又國王ノ許可ヲ待テ或ハ單ニ州委員ノ承諾ヲ取ル又邑費ヨリ俸給スル所ノ官吏ヲ命ス邑長ト補助官數員ハ一邑ノ行政權ニシテ法章及條例ノ施行ヲ監シ民籍ヲ保藏シ邑内ノ警察ヲ主リ邑庫ヲ檢シ文書ヲ藏貯ス若シ擾亂アルハ○此法章左ノ大則邑長ヨリ民兵若クハ鎮兵ヲ請求スルヲ得(原註)

處行ヲ確定ス

第一 直選 民選法ニ直選アリ重選アリ重選トハ人民但地方ノ諸長

官及州會ニ於ル政府ノ目代即チ州知事ニ係リ法章定メ得ル所ノ特例

ヲ除クテ重選ヲ用ヒス

第二 凡州邑ノ利益諸事ハ州會及邑會ノ權任ニ屬ス但特例諸件ハ法ノ定ル所ノ規式ニ從ヒ國王ノ許可ヲ要ス

第三 州會邑會ノ會議ノ公行但法章其ノ限ヲ定ム

第四 豫計來歲ノ定額統計前年ノ出入ノ公布衆人ヲシテ詳悉セシム

第五 州會邑會其權限ヲ越エ若クハ公利ヲ破ラサル爲ニ一州一邑

爲ニ全國ノ公國王及立法權大議院ノ鈐轄事ノ全國ニ交渉シ及大政ニ

ヲ得ス必ス國王及大議院ノ議ヲ經州邑ノ舉大政及公利ヲ妨クル者ハ之ヲ制止スルヲ得

第百九條 民籍生死婚ノ文憑ノ記錄及其編冊ノ保藏ハ專ラ邑官ノ權任トス

僧門干預セス

○西班牙

第七十一條 每州ニ州會ヲ置ク可シ但州會ノ員ハ法律ニ定タル規程

ニ循フテ之ヲ選舉シ法律ニ揭タル定員ヲ以テ之ヲ構制ス

第七十二條 府ニハアルカド第十五條第五項ニ見ユ及邑會ヲ置ク可シ但邑會ノ

議員ハ法律ニ依リ選舉ノ權ヲ得タル者之ヲ命ス可シ增補律例第十三條參看

第七十三條 州會邑會ノ構制職掌及政府ノ委員州邑會ニ參與スルノ權等ハ法律之ヲ定ム

ドローデンテルベレン

○葡萄牙

第三百三十三條及第三百三十四條此二條ヲ廢止シ増補律例第十條ヲ充補スルヲ左ノ如シ

増補律例第十一條 各邑ニ於テ國民ノ直接ニ公選シタル邑議會ハ

法律ニ依據シテ理財務ヲ執行スヘシ○建國法第三百三十三條第三百

十四條ニ廢止シテ更ニ充補スルヲ斯ノ如シ

第三百三十五條 邑務ノ執行警察條例ノ定立邑稅ノ享用邑官ノ職掌ハ定規ノ法律ニ依テ規定スヘシ

○荷蘭

第二百二十三條 州會ノ議員ハ法律ノ條規ニ循ヒ六歲間其職ニ任シ第七十六條ニ定ル約束ヲ備足スル國民之ヲ直撰ス○三歲毎ニ議員ノ半數ヲ更撰ス

第百廿四條 一名ニシテ國會ノ上院及州會ノ議員ニ兼任シ又同時ニ二州以上ノ州會議員タルヲ得ス

第百廿五條 州會ノ議員ハ其任ニ就クノ前各其奉スル宗教ノ儀式ニ循ヒ左ノ誓詞ヲ述ヘ又其約ヲ立ツ

予ハ建國法及國法ヲ遵奉スルヲ誓フ或ハ約ス故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠セン或ハ予レ之ヲ約ス

州會議員ハ第八十三條ニ於テ國會ノ議員ニ命シタル誓詞或ハ告白若クハ告白

約ヲ述フルノ後上文ノ誓詞ヲ述フルコトヲ許ス或ハ約ヲ立ルコトヲ許ス

第百廿六條 州會ハ每歲法律ニ定タル期限ニ於テ集會ス及國王ノ之ヲ召集スルキニ臨時會議ヲ開ク○會議ハ公行トス然レ國會ノ會議ニ係ル第九十六條ニ掲ル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第百廿七條 州會議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ委任狀ヲ受ケ及親ラ公評セントスル所ノ件ヲ其選舉者ニ稟議スルコトナシ
第百廿八條 凡論議及公評ニ管スル件ニ於テハ第百條第百一條第百二條ニ於テ國會ノ兩院ニ對シ定タル例則ヲ準用ス

第百廿九條 州會ハ每歲其職任トスル政務ノ支費ヲ國王ニ上奏シ其准允ヲ得ルニ及テ之ヲ州ノ歲計豫算表ニ登記ス○州會ハ每歲特ニ該州ノ出納豫算表ヲ公評シテ國王ノ准允ヲ請フ○州費ニ供備スル

州ノ租稅ハ國王ニ上奏シ法律ニ由テ許准ヲ受ヘシ

第百三十條 州會ハ法律ニ揭示シ及國王親ラ州會ニ委任スルヲ有益ト思量スル内國總政ノ部分ニ關スル法律及王勅ノ執行ニ任ス

第百三十一條 法律ハ州ノ構制及州政ニ係リ州會ノ職任ヲ規定ス○州益ノタメニ定タル王勅及條例ハ第百二十九條ニ掲ル條則ヲ除クノ外國王之ヲ准允スヘシ○州會ハ州内ノ輸出入及通運ニ妨碍ナキコトヲ看守ス

第百三十二條 州會ハ邑官ノ爭訟ヲ勸解ス若シ之ヲ勸解スルコト能ハスシテ其行政權抵觸ニ係ルキハ國王ノ決裁ヲ仰ク

第百三十三條 國王ハ法律若クハ國益ニ戾レル州會ノ布令ヲ停閣シ又取消スコトヲ得○法律ハ此停閣若クハ取消ヲ行ヒシヨリ生シタル

關係ヲ規定ス

第三百三十四條 州會ハ國王及國會ニ對シ其州ノ土地人民ニ係ル利益論辨保護スルコトヲ得

第三百三十五條 法律ハ州會ニ屬スル權任ノ受用ヲ規定ス

第三百三十六條 州會ハ法律ノ條規ニ循ヒ其會期間及其閉會ノ間庶務ノ管理決行ニ屬スル事般ヲ掌トル常設委員ヲ其議員中ニ選用ス

第三百三十七條 國王ハ州毎ニ王勅ノ執行及州會ヨリ登出スル布令ノ監察ニ任スル理事官ヲ命ス○理事官ハ州會及常設委員ノ會議ニ上席コンミテールス但常設委員ノ會議ニ於テハ決議ノ權ヲ有ス

第三百三十八條 邑官ノ設置構制及權任ハ州會ニ開議シ且次ノ數條ニ

定タル條則ヲ遵踐シテ法律之ヲ定ム

第三百三十九條 邑ニハ各一邑會ヲ置テ其理治ニ長トス但邑會ノ議員ハ定タル幾歲間及法律ニ定タル條規ニ準シ邑民之ヲ直撰ス○國王ハ邑會ノ議長ヲ任命シ及廢黜ス且邑會議員ノ外ニ該議長ヲ撰用スルコトヲ得○邑ノ選舉人トナルニハ第七十六條ニ定タル分限ヲ充備スヘシ但選舉人タルカタメニ納ルヘキ直税ノ額ハ同條ニ掲タル半數ニシテ足リトス

第四百十條 邑會ハ邑政及邑益ノ事件ヲ規定ス第三百三十三條ハ邑會ニ於テ定タル此條例ニ準用スヘシ但邑會ハ此條例ヲ州會ニ通知ス
第四百十一條 邑領ノ賣買ニ管スル邑官即チ邑會ヲ指テイフノ布令法律ニ掲示スル民權ノ布令及邑ノ歲計豫算表ハ州會ノ許允ヲ待ツ

第四百十二條 邑稅ヲ制定變改若クハ廢止シタル邑官ノ布令ハ○會ニ通照ス州會ハ之ヲ國王ニ上奏シテ制可ヲ仰ク○法律ハ邑稅ニ管スル總則ヲ定ム○邑稅ヲ課スルニ因リ各邑雙互ノ通運又輸出入ヲ妨礙スルヲ得ス

第四百十三條 法律ハ亦邑ノ歲計豫算表及決算表ニ係ル總則ヲ定ム
第四百十四條 邑官ハ國王國會及州會ニ對シ其邑ニ屬スル土地人民ノ利益ヲ論辨保護スルヲ得

第四百十二條 州會ハ其州内ノ水流、橋、堤、水理務及水理區ヲ監察シ國王ノ准允ニヨリ水理區ノ構制ト條例トヲ變改シ及之ヲ新設スルヲ得但前二條ニ揭ル條則ハ此限ニ在ラス○是故ニ水理區ノ長官ハ州會ニ其意見ヲ起議スルヲ得

第四百十三條 州會ハ其州内ニ於テ荒蕪開墾、堤防、建築、沼澤乾竭及泥炭坑、礦坑、採石坑ノ開掘ヲ監察ス然レ國王ハ官吏ヲ特設シテ此監察ノ任ヲ與フルヲ得

○露西亞

州ヲ分テ郡ト爲シ各郡ニ於テ議院一ヶ所アリテ施政及裁判事務ヲ兼勤スルナリ議長及裁判役二人ハ華族之ニ任シ其他ノ裁判役二人ハ農民之ニ任シ檢事一名之ニ屬ス○各州ニ於テ施政ノ評議ヲ爲ス者ハ己ニ前文ニ述ヘタル華族議院及州ノ議會郡ノ議會ナリ州ノ議會ハ郡ノ議會ヨリ撰任シタル各代ヲ以テ編制シ郡ノ議會ハ左ノ三種ノ人民ノ撰舉人之ヲ任ス

- 第一 地主 華族タルト否トヲ問ハス
 - 第二 市街ニ住居スル者
 - 第三 村邑ニ住居スル者
- 凡撰舉人トナルニハ二十五歳已上タラサルヲ得ス且法律ニ定タル條々ニ適セサルヲ得ス此議會ノ議員ハ三年間任スル者ニシテ給料ヲ受ルコナシ州ノ議會ハ毎年一度二十日間集會シ郡ノ議會ハ毎年一度十日間集會ス各華族ノマレシヤル之ニ上席スルナリ其議會ノ職務ハ左ノ如シ
- 第一 其州ノ財産金錢歳入ヲ取扱フ事
 - 第二 其州ニ屬スル道路或ハ家屋ヲ築造シ及修治スル事
 - 第三 州民ノ安樂ニ要スル處分ヲ爲ス事

- 第四 救恤ノ處分教育所ノ支配及寺院ノ建築
- 第五 此州ニ於テ設タルアツシユランス、ミユチユエル會社人民互ル爲メ設立シタル會社ヲ云フヲ取扱フ事
- 第六 該州ノ貿易工作ヲ勸奨スル事
- 第七 小學人民ノ健康及獄舍ニ管スル處分
- 第八 傳染病及害惡ノ獸類ヲ防クノ處分
- 第九 全國ノ租稅ノ中法律ニ定タル所ノ稅ヲ割賦シ又地方稅ヲ承諾及決定シテ之ヲ割賦ス又其稅ヲ以テ州郡ノ費用ニ供スル事
- 第十 州院郡院集會セサル間ニ其事務ヲ取扱フ可キ委員ヲ任スル事但各州ノ委員ハ議長一名及二員ヨリ六員マテノ議員ヲ以編制シ三年間之ヲ任シ且俸給ヲ授ク○郡ノ委員ハ二員或ハ三員ノ議

員ヲ以テ編制ス委員議長ノ撰任ハ内務卿ノ確定ヲ受ク

市街ノ施政 各市街ニ於テ邑長一名副邑長數名及議院一ヶ所ヲ以テ

編制シタル邑官アリ邑官ハ左ノ者ヲ以テ編制シタル議會之ヲ任ス

第一 邑稅ヲ納ムル所ノ不動産ノ主

第二 商社或ハ工作所ノ主及支配人

第三 此市街ニ二年間已上住居シ且邑稅ヲ納ムル者

邑官ノ職務ハ邑内事務ノ外取締ノ保存安寧及健康ノ處分港津南市

相場市銀行救育所病院貧院ニ付テノ規則ヲ設立スルコト公學貿易工

作ヲ勸勵スルコトヲ包含ス○邑官ノ内ヨリ選舉シタル六員ハ警察買

易裁判所ヲ編制ス

村邑ノ施政 村邑ハ土地ヲ耕作スル農夫ノ組合ナリ華族及ヒ人民ノ

大田地ハ村邑ニ屬セスシテ州政ニ屬スルナリ又市街ニモ各別ノ施

政ノ方法ヲ用フルナリ○村邑ニ於テ家主集リテ議會ヲ爲ス此邑會

ハ邑長學校長收納官森林保存役及其他ノ役人ヲ任シ邑ノ歲出入豫

算表ヲ作シ邑ノ費用ニ供ス可キ爲メ要スル所ノ邑稅ヲ定メ且全國

ノ租稅ヲ邑民ニ賦課スルナリ○邑ノ土地邑民ノ共有物ナレハ露國ニ於

テ大抵邑民ハ邑地ニ於此議會ハ邑地ヲ分テ之ヲ各家ニ配當ス若シ邑民

各別ニ土地ヲ所有スル時ハ其家屋ナキ土地ノミヲ配當スルナリ尙

此議會ハ農夫ニ轉邑ノ各許ヲ授ケ又邑内ニ住居セントスル他邑ノ

家主ニ其免許ヲ授ケ或ハ拒ナリ幼者ニ後見人ヲ付ケ又家内ニ於テ

財産ヲ分配スルコトヲ許ス此議會ハ警察裁判所トシテ犯罪ヲ裁判ス

其言渡ヲ得可キノ刑ハ罰金ヨリ邑ヲ放逐スルノ刑ニ至ルマテトス

○邑ノ上ハ副ロスト乃チ日本ノ大區ニ似タル者アリ區長一名副區長二三名及議院二ヶ所之ヲ管理スルナリ此議院ノ中一ヶ所ハ邑ノ名代十戸毎ニ名代一人トスヲ以テ編制シ其他ノ議院ハ區長ヲ輔佐スル爲メ設タル者ニジテ區内ノ諸邑長及收納官ヲ以テ編制ス

第十四 國費

○佛蘭西一千七百九十一年

第九十八條 租稅ハ年々民選議院評議ノ上定ルモノニシテ翌年會席ノ終日マテ自然之ヲ繼續スヘシ

第九十九條 國債ノ仕拂及國王ノ俸金ノ拂方ニ要スル金錢ハ孰レノ口實アル凡民選議院之ヲ承諾セサルヲ得ス又孰レノ時ト雖凡其仕拂ヲ一時差停ムヘカラス○カトリツ旨ノ僧ノ給金ハ國民ヨリ撰任シ或ハ憲法會ヨリ委任シタル僧徒ヲ論セス之ヲ國債中ニ加入スヘシ○孰レノ場合ニテモ民選議院ハ一人ノ負債ヲ全國民ニ負ハスヘカラス

第二百條 諸省ノ諸費ノ詳細ノ勘定書ハ諸卿或ハヲルドナールゼ子

ラレ拂ヘキ証書ヲノ証文及花押ヲ受シ後會席ノ初ニ印刷シテ布告スヘシ○諸税及總テ歳入ノ收納表モ前文ト同様ナルヘシ

右出入金ノ証書ハ其種類ニヨリテ區別スヘシ且各郡ニ於テ各年ノ歳出入ノ金高ヲ詳細ニ顯スヘシ○各州ニ限ル處ノ雜費ノ中裁判所施政局及他ノ公ノ建造所ニ管スル雜費モ同様ニ布告スヘシ

第二百一條 州官郡官ハ民選議院ニ於テ定タル金高及期限ノ外民選議院ノ免許ヲ受サレハ孰レノ租税取立或ハ孰レノ租税ノ配賦ヲナスヘカラス且一州人民ノ負フヘキ所ノ借金ハ之ヲ評議シ或ハ許スヘカラス

第二百二條 行政官ハ諸税ノ收納ト拂方トヲ注意シ且右ニ付要スル命令ヲ發ス

○佛蘭西一千七百九十三年

第一百一條 國費ノ供用ニ參加スルコトノタメ爲スヘキニヨリテ孰レノ國民モ之ヲ免ルヘカラス

第二百二條 國帑寮ハ總テ共和國ノ出入金錢ヲ合一スル所ナリ

第二百三條 行政院ヨリ委任シタル勘定役ハ之ヲ掌管ス

第二百四條 民選議院ヨリ特任シタル委員ハ國帑寮ノ勘定役人ヲ検査スヘシ但此委員ハ民選議員中ニ撰擧スヘカラス且會計上ニ於テ故造アルニ於テハ右委員之ヲ告發セサレハ其責ヲ任スヘシ

第二百五條 國帑寮ノ官員ノ會計書及其他都テ官金ヲ掌管スル役人ノ會計書ハ行政院ヨリ特任シタル検査委員ニ年々之ヲ送達スヘシ且

其委員夫ニ就テ責ニ任スヘシ

第百六條 検査委員且民選議院ヨリ民選議員ノ外ニ撰擧シタル他ノ委員ハ前條ノ検査委員ヲ監守スヘシ右監守委員ハ會計書ニ於テ過度或ハ違算アリテ之ヲ告發セサレハ其責ニ任シヘシ○民選議院ハ國ノ年計ノ決算ヲ爲ス

○佛蘭西 一千七百九十五年

第三百二條 租税ハ民選議院毎年評議ノ上之ヲ決定ス民選議院ノ之ヲ設立スルヲ得ヘシ且租税ハ更ニ再決セサレハ一年ヨリ長ク續クヘカラス

第三百三條 民選議院ニ於テハ都テ緊要ト思フ所ノ租税ヲ設立スル

ヲ得ヘシト雖モ毎年必ス地税及人税ヲ設立スヘシ

第三百四條 孰レノ人モ斯ノ如キ憲法ノ第十二及第十三條ニ記シタル場合ニアラス又直税ノ割付書ニ記名セサルモハ已ノ邑政官ヘ出テ農業三日分ノ雇賃ニ均キ人税丈ケ右直税割付書ニ自ラ記名スルヲ得ヘシ

第三百五條 前條ニ從テ自名ヲ直税ノ名簿ニ記スルノ權ハ六月十九日ヨリ七月十九日マテノミ之ヲ行フヲ得ヘシ

第三百六條 各類ノ租税ハ各人ノ能力ニ應シ都テ税ヲ納ムヘキ國民ノ間ニ配當スヘシ

第三百七條 督理官ハ租税ノ收納ト仕拂トヲ注意シ且夫レニ付要スル諸命令ヲ發スルヲナリ

第三百八條 諸費委細ノ勘定書ヲ各卿ヨリ實正シ且花押ヲ受ケシ後各年ノ初ニ出板シテ布告スヘシ○諸稅及總テ國ノ歲入ノ請取表モ前文ト同様ナルヘシ

第三百九條 右出入金ノ表ハ其類ニヨリテ區別シ且政府ノ各地政官ヨリ毎年爲セシ雜費及請取り入金ヲ委細顯スヘシ

第三百十條 各州限リノ雜費ノ内裁判所州郡邑ノ施政官學術ノ進歩及都テ公然工業及建造所ニ管スル雜費モ同様ニ布告スヘシ

第三百十一條 各州政官及邑政官ハ民選議院ヨヨ定タル金高ノ外孰レノ稅ノ配賦ヲ爲ス能ハス又民選議院ノ免許ヲ受ケスシテ州或ハ

區或ハ邑ノ人民ヨリ擔當スヘキ借金ヲ商議シ或ハ評スヘカラス
第三百十二條 貨幣ノ諸類ノ鑄造及發行ヲ定メ且其位價ト重量及模

樣ヲ決スルコトハ民選議院ノミ之ヲ定ヘシ

第三百十三條 シレンツル 督理官ハ貨幣ノ鑄造ヲ注意シ及直ニ檢査スヘキ官員ヲ委任ス

第三百十四條 民選議院ハ佛蘭西國ノ租稅ヲ定メ且屬國ト本國トノ貿易ノ規則ヲ定立スルコトナリ

第三百十五條 國帑寮ノ委員五人アルヘシ右ハ五百員議院ヨリ差出シタル三通ノ人名表ニヨリ老人議院之ヲ撰擧スルコトナリ

第三百十六條 右委員ノ在職年期ハ五年ニ定マルコトナリシカ毎年其五人ノ内一人ヲ改選スヘシ尤退職ノ者ヲ直ニ再任シ又何度ニテモ復任スルヲ得ヘシ

第三百十七條 國帑ノ委員ハ國ノ金錢ノ收納ヲ檢査シ民選議院ヨリ

承諾セシ諸雜費ノ爲メ金錢ヲ遞送スヘキコ及之ヲ拂フヘキコヲ命
シ又各州ノ直稅收納官ト政府特權ノ製造所ノ支配人及各州ニ在勤
スルヲ得ヘキ拂ヒ役ノ出入勘定日記ヲ開キ用ユヘシ且右收納官ト
拂ヒ役ト支配官ト及州邑政官ト相當ノ往復ヲ爲スヲ以テ精確ニ金
錢ヲ收納セシムルコヲ擔當スルコナリ

第三百十八條 國幣ノ委員左ノ決定ニ因ラスシテ金ヲ拂ヒ渡サシム
ルハ官吏公罪ヲ犯スコナリ

第一 民選議院ヨリ發シタル布令且其布令ニ記シタル金高

第二 シレクトロ^官ノ決定

第三 其雜費ヲ拂フヘキコヲ命スル卿ノ花押

第三百十九條 金ヲ拂フヘキ手形ニ就テ如シ其手形ニ其雜費類ニ管

スル卿ノ印ヲ捺サスシテ或ハ其拂フコヲ承諾スル爲メ民選議院ヨ
リ發シタル布令ノ月日及シレクトロ^官ノ決定ノ月日ヲ記セスシ
テ國幣ノ委員其手形ヲ承諾スルハ官吏公罪ヲ犯セシトス
第三百二十條 各州ノ直稅收納官政府特權製造所ノ支配役ト各州ノ
拂ヒ役トハ各國幣ノ本局ヘ己ノ勘定書ヲ差出スヘシ國幣ノ本局ニ
於テ之ヲ檢査シ且其決算ヲナスヘシ
第三百二十一條 國幣委員ノ外民選議院ヨリ右同時ニ同様ノ法式ト
規則トヲ以テ選任シタル會計委員五人アルヘシ
第三百二十二條 國幣委員ハ共和國出入總勘定ニ各委細勘定書及右
ニ管スル証書ヲ添ヘシ後之ヲ會計委員ヘ差出ス會計委員之ヲ檢査
シ決算スヘシ

第三百二十三條 會計委員ハ其検査所業中發覺セシ不正ト貪欲ノ惡行及都テノ官員ヲ責任スヘキ註誤ヲ民選議院ヘ報告スヘシ又會計上ニ付テ共和國ノ益トナルヘキ處置ヲ勸告スヘシ

第三百二十四條 會計委員ヨリ決算シタル勘定ノ畧文ハ之ヲ出板シ布告スヘシ

第三百二十五條 國帑及會計ノ委員ハ民選議院ノミ之ヲ停職シ或ハ免職スルヲ得ヘシト雖モ民選議院集會セサル中ニ督理官ハ其委員ノ内二人以下停職シ假ニ其代役ヲ任シ置ヘシ但其場合ニ於テシレクトワールハ民選議院ノ兩院ノ内初テ再會スヘキ議院ヘ其旨ヲ報告スヘシ

○佛蘭西一千七百九十九年

第八十九條 國ノ會計委員ヲ設立シ共和國ノ出入金錢ノ計算證書ヲ之ニ検査セシム可シ右委員ハ元老院ニテ全國連名書中ヨリ選任シタル七人ヲ以テ編制スル者ナリ

○佛蘭西一千八百一十四年

第七十條 國債ハ保証シタル者トス全体政府ヨリ國債主ニ對シテ爲シタル約束ハ違背ス可ラサル者ナリ

第四十七條 租稅ヲ設立スル爲ノ法律ノ議案ハ盡ク民選議院ニ屆ケ出ツヘシ民選議院之ヲ承諾セシ上ニアラサレハ其議案ヲ上院ニ送ル可ラス

第四十八條 凡租稅ハ兩院ニ於テ之ヲ承諾シ國王之ヲ確定シタル後
ニアラサレハ之ヲ定メ及收納ス可ラス

第四十九條 地稅ハ一年ノ爲ノミ之ヲ決議スヘシ不直稅ハ數年ノ爲
メ決議スルヲ得ヘシ

○佛蘭西一千八百十五年

第三十四條 地稅家租ヲ問ハス總テノ直稅ハ一年限ノミ之ヲ決議シ
不直稅ハ數年ノタメ一度ニ決議スルヲ得可シ○下院解散スルニ於
テハ新ナル下院集會スル迄ハ其前ノ集會中已ニ決議シタル租稅ヲ
續テ徵ス可シ

第三十五條 金貨或ハ物品ヲ以テ納ム可キ直稅不直稅ヲ論セス稅ヲ

徵スルコト又孰レノ借用ヲ爲スコト或ハ國債ノ簿冊ニ孰レノ借財ヲ記
入スルコト國家ノ孰レノ財産ヲ手離スコト又之ヲ引替ルコト徵兵スルコ
ト國ノ領分ノ孰レノ地ヲ他ノ地ト取替ル等ハ法律ノ體裁ヲ用ヒズシ
テ之ヲ爲可ラス

第三十六條 凡租稅ト金ノ借用ト徵兵等ヲ定シメントノ進言ハ下院
ニ之ヲ差出可シ

第三十七條 左ノ者モ必ス先ツ下院ニ届ケ出ス可シ

- 第一 翌年ノ歲入豫算高并ニ各省ノ爲メ定額金ノ進言ヲ記シタル
所ノ國ノ歲出入ノ總勘定書
- 第二 當年并ニ前年ノ勘定書

○佛蘭西一千八百三十年

第四十條 凡租稅ハ兩院ニ於テ之ヲ承諾シ國王之ヲ確定シタル後ニアラサレハ之ヲ定メ及收納ス可ラス

第四十一條 地稅ハ一年ノ爲ノミ之ヲ決議ス可シ不直稅ハ數年ノ爲メ一度ニ之ヲ決議スルヲ得可シ

第六十一條 國債ハ保證シタル者トス全體政府ヨリ國債主ニ對シテ爲シタル所ノ約束ハ違背ス可ラサル者ナリ

○佛蘭西一千八百五十二年

第九十條 全國ノ歲出入豫算表ニハ民選議院ノ歲出入金高ヲ直ニ元老院ノ歲出入金高ノ次ニ記ス可シ

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第十二條 經費ノ見積書ハ政府ノ各宰相局ニ於テ其入用ノ額ヲ章條ニ分チ之ヲ議院ニ出ス可シ

其見積書ハ政府ノ各宰相局毎ニ議院ニ於テ之ヲ決議ス可シ

政府ノ各宰相局ノ爲メ許シタル經費ノ額ヲ章毎ニ分派スルコトハ參議院ニ於テ下シタル皇帝ノ勅書ヲ以テ定ム可シ

又同上ノ法式ニ從フタル別段ノ勅書ヲ以テ其經費見積書中ノ一章ヲ他ノ一章ト換ルコトヲ許ス可シ○此規則ハ千八百五十三年ノ見積書ニ之ヲ用フ可シ

○英吉利

卷一第十四條 凡臨時助金ヲ要スル時ハ上條ニ掲ル三例ヲ除クノ外
 必ス之ヲ王國議院ニ於テ議定セン爲ニ先ツ大僧正僧正侯伯大名ハ
 各通ノ勅書ヲ以テ召集シ自餘ノ小名大夫諸士ハテ子ントイ其州官シレターニヨリス
 及縣官等ヲシテ一通ノ勅書ヲ以テ一統ニ召集セシムヘシ其期日并
 ニ集會所ハ少クモ四十日前ニ定メ知ラシムヘシ凡此勅書ニハ必ス
 其召集ノ所以ヲ申述スヘシ而シテ已ニ此ノ如ク召集シタル以上ハ
 其期日ニ至レハ仮令議員未タ來集セサル者アリト雖モ其已ニ參集
 シタル議員ノミニテ先ツ議事ヲ始メ遲滯ナク其職務ヲ盡サシムヘ
 シ○是即チ今日上下議院ノ階梯ナリ即今尙此例ヲ存シ上院ノ議員
 ハ王ヨリ各通ノ詔書ヲ以テ之ヲ召ス下院ノ議員ハ其州官ニ令シテ

之ヲ召サシム

第十五條 將來助金ヲ其陪臣ヨリ妄リニ徵收スルノ權利ヲ其領主ニ
 許與スヘカラス只其身ヲ贖フ時其嫡子元服ノ時及其長女婚姻ノ時
 等古例通りノ助金ヲ徵收スルハ此限ニアラス

第十六條 凡大夫諸士テイトテ子ト各其領地ニ相當シタル
 國役ノ外決シテ之ヲ強要セラルヘカラス

第二十五條 凡州郡鄉村ハ悉ク古來ノ地租ヲ増加スヘカラス但帝ノ
 所領地テミトンランドハ此限ニアラス

第五十五條 凡法外ノ貢金及罰金等已ニ命シタル者ハ悉ク之ヲ廢止
 スルカ或ハ下條ニ命スル所ノ二十五候又其半數以上トカシタバレ
 止大僧正等ト共ニ之ヲ評定スヘシ若シ二十五候ノ内爭論ニ加ハル

者アル時ハ此時ノミ別段其者ヲ取除ケ別ニ其員數ヲ補ヒ二十五候ト爲シ共ニ審判ヲ爲ヘシ

卷二第五條 凡從來軍役國費等ノ助金及賦金ヲ獻納シタル者或ハ其記錄卷ニ記載シタルヲ以テ後來宰相之ヲ認メテ先例ト爲シ以テ人民ヲ壓制センコトヲ恐ル、者アラン故ニ朕今更ニ准允ス凡助金賦金從前記錄卷ニ明載アリトイヘ臣將來朕カ子孫ニ至ル迄是ヲ先例ト爲シ以テ助金賦金ヲ要取スルコト有ルヘカラス

第六條 朕汝大僧正僧正和尚一切ノ僧侶及侯伯全國一般ノ人民ニ左ノ條約ヲ准允シ永世子孫ニ至ル迄敢テ渝リアルコトナカルヘシ○凡自今國費ノ爲ニ助金賦金等ヲ要スル時ハ必ス全國利益ノ爲ナルヲ認メ且先ツ全國人民ノ許可ヲ得ルニ非レハ決シテ之ヲ徵收スヘカ

ス但古來規定ノ助金賦金等ハ此限ニ非ス

第七條 凡全國過半ノ人民羊毛ノ過稅ニ苦シム則羊毛一袋ニ付金四十シリンヅ也人民已ニ此疾苦ヲ哀訴シ朕ニ歎願シテ之ヲ寬免センコトヲ請ヘリ故ニ朕今此稅ヲ悉皆免除シ且將來子孫萬世ニ至ル迄全國人民ノ許諾ヲ得ルニ非レハ決シテ羊毛ノ稅ヲ收納スヘカラス但古來ノ人民ヨリ准允スル所ノ羊毛及獸皮革ノ定稅ハ此限ニ非ス○後來證據ノ爲メ此條約ヲ勅令ニ作ル太子^{カミヤマト}ト^{カミヤマト}龍動ニ於テ之ヲ保證ス

卷三第一條 當巴里門ニ集會シタル貴族僧俗并ニ一般人民頓首再拜シテ至尊君王ニ告白ス謹テ按スルニ昔先王^{カミヤマト}ト^{カミヤマト}一世ノ時確定シタル^{スル}コトヲ^{カミヤマト}ニ^{カミヤマト}云定書ニ曰

凡助金賦金ハ先ツ全國大僧正僧正侯伯大夫諸士人民ノ許可ヲ得ル
アイルランドニ非レハ君王トイヘレ之ヲ徵收スヘカラスト又先王ドワード三世
 二十五年巴里門ニ於テ定タル書ニ曰凡皇帝ノ命令ヲ以テ人民ヨリ
 負債ヲ募ルレ其負債ヲ皇帝ニ出金スルヲ好マサル者ニハ之ヲ強要
 スル能ハス如何トナレハ此ノ如キ強要ノ負債ハ則チ此帝國ノ法律
 及人民自由ノ權利ニ相悖レハナリ且御冥加金ト稱シ獻金ヲ強要ス
 ルレモ已ニ法律ニ於テ制禁アリ抑陛下ノ臣民ハ此自由ノ權利ヲ古
 ヘヨリ固有シ祖先ヨリ因襲シタルモノ也故ニ巴里門一般ノ許可ニ
 アラサレハ凡稅銀助金賦金等モ一切之ヲ強要セラルヘカヲサルハ
 已ニ顯然タリ○御冥加金トハ當時已ニ國憲アリ妄リニ租稅ヲ増ス
 能ハス微カニ嬖臣ヲ四方ニ派出シ人民ヲ説キ或ハ之ヲ誘シ或ハ之

ヲ威シ金銀ヲ出サシム之ヲ御冥加金ト稱シ稅ト云ハス當時帝王權
 臣トイヘレ直ニ法ヲ破ルヲ好マス只之ヲ避ル工夫ヲ爲ノミ因テ知
 ル法律ヲ愛スルノ精神アルレヲ

○獨逸

第四條 帝國及帝國法律ノ管理ヲ受ヘキ諸件ハ左ノ如シ

第一 フライツウギグカイト獨逸聯邦ヲ自在ニト及人民ノ本籍權住
ト居政權路券外國人取締ノ事ニ關スル種々ノ規則又此國憲ノ第三
 條ニ於テ未タ掲載セサル營業并ニ保險ノ事ニ關スル種々ノ規則
 又外國ノ殖民及遷徒ノ事ニ關スル種々ノ規則トビエールニ於テ
 本籍及住居ノ事ハ格別ナリトス

第二 輸出入税及貿易ニ關スル立法又帝國ノ爲ニ用ユ可キ賦税ノ事

第三 度量衡及錢貨ニ關スル立法又有息紙幣公債無息紙幣通用ヲ發行スルニ付テノ規則

第四 ハシ銀ノコニ關スル規則

第三十三條 獨逸國ハ輸出入税及貿易ノコニ付テ一ノ疆界ヲ以テ區畫シタル領地トス然レ地理ニ由リ右輸出入税ノ疆界内ニ列ス可カラサル隔在ノ領分ハ之ヲ除ク○聯邦各國ニ於テ自由ニ用ヒラル可キ諸物ハ輸出入税ヲ納スシテ聯邦ノ他國ニ輸入スルコトヲ得可シ然レ輸入シタル諸物ト同物ニテ該國ノ國內税アル者ハ輸入シタル諸物ニ付テモ亦同一ニ收税スルコトヲ得可シ

第三十四條 聯邦ノ市街ブレームヒ及ハシブルグ并ニ之ニ屬スル近傍ノ領地ハ右ニケ所ヨリ租税會ニ加ハラシコトヲ請求スル迄ハ前條ニ掲載シタル全國ノ輸出入税ノ疆界外ニ在ル自由港ト看做ス可シ

第三十五條 凡輸出入税及聯邦ノ領地内ニ於テ製造シタル食鹽烟草火酒麥酒糖茶糖又他ノ國內ノ產物ヨリ製造シタル砂糖及糖蜜ノ課税并ニ聯邦各國ニ收入ス可キ國內税ヲ互ニ相保護シテ蜜賣ナカラシメ又獨逸全國ノ輸出入税ノ疆界ヲ守ル爲ニ緊要ナル處分ハ皆ナ帝國ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム○ハシビエール及ハシイルテンベルグ及ハシ一デヒノ三ヶ國ニ於テ國內ノ火酒税及麥酒税ハ其國ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム然レレ聯邦各國ハ右諸物ニ付キ同一ナル收税法ヲ施行ス

ルヲ要ス

第三十六條 輸出入税及國內税ヲ收メ及之ヲ管理スル事ハ聯邦各國ノ領地内ニ於テ昔時此事ヲナシタル國ニ於テハ將來亦之ヲ行フヲ得○皇帝ハ輸出入税及租税ニ關スル上院委員第八條第三項參看ノ評議ヲ受ケ聯邦各國ノ税關ノ官吏等及租税ノ監督官ノ側ニ置キタル帝國官吏等ニ由テ輸出入税及租税ノ事ヲ總監ス○帝國一般ノ法律第十五條參看ヲ充分ニ施行セサルコトニ付キ右帝國官吏等ノ爲シタル告訴ハ上院ニテ之ヲ論決ス可シ

第三十七條 帝國一般ノ法律第三十五條參看ヲ施行スル爲ニ緊要ナル行政規則及種々設立ノ事ヲ決定スル時如シ現在ノ規則或ハ設立ヲ保タシムル爲ニハ議長ノ投言ニ由テ必ス之カ決定ヲナス可シ第五條參看

第三十八條 凡税關及帝國ノ立法ニ關スル此國憲ノ第三十五條ニ掲載シタル租税ノ收額ハ帝國ノ國庫ニ納ム可シ○税關及其他ノ租税ヨリ生スル收額ニ就キ除去ス可キ者ハ左ノ如シ

第一 法律ニ循ヒ一般行政ノ規則ニ由リ償還ス可キ租税及輕減ス可キ租税

第二 過テ課收シタルト返還ス可キ租税

第三 租税ヲ課收シ及租税ヲ管理スルニ付テノ費額此第三項中ニ於テ區別ス可キ者ハ左ノ如シ

- 一 輸出入税ニ付テハ外國ニ對シ國境及其近傍ノ地方ニ於テ輸出入税ノ事ヲ保護シ又輸出入税ヲ課收スル爲ニ必要ナル費額
- 二 鹽税ヲ製鹽所ニ於テ之ヲ課收シ又此稅務ヲ管理スル爲ニ命

セラレタル官吏等ノ俸給ヨリ生スル費額

三 甜菜糖及烟草税ニ付テハ上院ノ決定ニ循ヒ其税ヲ管理ス可

キ支償ノ爲ニ免除ス可キ償額

四 自餘ノ租税ニ付テハ總テ收額ノ十五分ヲ除去ス

第三十三條ニ掲載シタル輸出入税ノ疆界外ニ在ル隔在シタル種々

ノ領分ハ每歲其國ニ相應シテ定タル金額ヲ帝國ノ國庫ニ納ム可シ

○アビエールウイルテンベルグ及アーデンノ三ヶ國ハ火酒及麥酒

税ニ付キ帝國ノ國庫ニ納ム可キ金額及右隔在シタル領分ヨリ納ム

可キ其國相應ニ定タル金額ヲ納ムルニ及ハス

第三十九條 三ヶ月間課收セラレタル輸出入税及此國憲ノ第三十八

條ニ據テ帝國ノ國庫ニ納ム可キ國內税ニ付キ各國税關ノ上等官吏

ニテ三ヶ月毎ニ製ス可キ三ヶ月摘要書及右輸出入税及國內税ニ付

キ上等官吏ノ歲末ニ於テ一歲ノ統計ヲ決算スル^{ケルターレエンストラクト}ル^ト租税ノ決算書ハ

各國ノ監督官ニテ豫メ之ヲ調査シ而シテ其一覽表ヲ編製シ一切ノ

税額ヲ登記シ之ヲ上院ノ國計ニ關スル委員ニ送付スヘシ○上院ノ

國計ニ關スル委員ハ右一覽表ニ据テ三ヶ月毎ニ各國ノ倉庫ヨリ帝

國ノ國庫ニ納ム可キ金額ヲ假定シ之ヲ上院及各國ニ報告シ而シテ

己ノ意見書ヲ添ヘテ每歲右金額ニ付テ終リノ決定書ヲ上院ニ提出

シ上院ニ於テ更ニ右決定書ヲ議決ス

第四十條 此國憲ノ種々ノ規定ニ由テ改正セラレサル部分或ハ此國

憲ノ第七條及第七十八條ニ掲載シタル法式ニ由テ改正セラレサル

者ニ付テ一千八百六十七年八月八日ノ租稅會ノ條約書ニ掲載シタ

ル種々ノ規定ハ其効ヲ有ス

第四十九條 郵便局及電信局ノ收額ハ帝國一般ノ爲ナリ其局ニ付キテノ入費ハ帝國一般ノ入額ヨリ支給ス可キ者トス餘金ハ帝國ノ大藏省ニ納ム可シ(原註第十
二篇參看)

第五十一條 第四十九條ニ從ヒ郵便ノ餘金ヲ帝國ノ大藏省ニ納ム可キトニ付キ聯盟各邦ニ於テ從前得タル所ノ餘金ハ大ナル差違アルガ故ニ相當シタル平均ヲ得ル爲ニ此下ニ記載スル時間中ニ用ユ可キ方法ハ左ノ如シ○聯盟各邦ニ於テ千八百六十一年ヨリ千八百六十五年ニ至ル迄五ヶ年間得タル所ノ郵便ノ餘金ヨリシテ一年間平均ノ金額ヲ計算ス可シ其平均ノ金額ヨリシテ聯盟各邦共同シテ帝國大藏省ニ納ム可キ金額ニ付テ各邦ノ納ム可キ割合ヲ定ヘシ○聯

盟各邦ハ帝國ノ郵便局トナル時ヨリ八年間右ノ如ク定タル割合ニ從テ其各邦ノ帝國大藏省ニ納ム可キ金額ハ各邦ヨリ帝國大藏省ニ納ムル割合金ノ勘定ニ入ル可シ○八年ノ時間ノ終リタル後ニ至リ右方法ハ用ヒス而シテ郵便一切ノ餘金ハ第四十九條ニ記載シタル規定ニ從テ直ニ帝國大藏省ニ納ヘシ○右ニ記載スル所ノ八年ノ時間中ハハンゼスタツトノ三ヶ所ノ郵便局ヨリ生スル餘金ノ割合金ノ半數ハ每歲豫メ皇帝ニ之ヲ納ヘシ而シテ皇帝ハ之ヲ以テハンゼスタツトニ於テ獨逸帝國ノ規則ニ合シタル郵便局ノ設立ヲ爲ヘシ

第六十九條 帝國ノ歲出入ハ毎年之ヲ見積リ而シテ之ヲ豫算表ニ記載ス可シ此豫算表ハ其歲入ヲ費用スル年ノ前年ニ於テ此下ニ記載

スル所ノ規則ニ循ヒ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七十條 前年ノ殘金輸入税國內税及郵便局電信局ノ諸入額等ハ帝國ノ入費ヲ償フ爲ナリ帝國ノ諸入費ヲ償フ爲ニ右金額ノ不足ナル并ハ帝國ノ租税ノ收入セサル時間聯盟各邦ハ其人口ノ割合ニ因テ其不足分ヲ納ム可シライクスカンツレ大宰相ハ毎年豫算表ノ不足及聯盟各邦ノ納ム可キ部分ヲ布告ス可シ

第七十一條 帝國ノ諸入費ハ通例一年間ニ定ヘシ然レ格別ノ場合ニ於テ一年ヨリ長キ時間ニ定ムルヲ得可シ○第六十條ニ記載スル所ノ假規則ヲ用フル時間陸軍ノ入費ニ付テ明細ナル豫算表ヲ下院ニ進呈ス可シ

第七十二條 帝國ノ諸入額ヲ費用スルヲニ付キライクスカンツレ

ハ其責任ヲ解ク爲ニ明細ナル豫算表ヲ毎年上院及下院ニ差出ス可シ

第七十三條 非常ノ入費アル場合ニ於テハ兩院ノ決定ヲ以テ金額ヲ借り又帝國ノ名義ヲ以テ其負債ヲ保證スルヲ得可シ○ハビエー_ルノ軍隊ノ入費ニ付キ第六十九條及第七十一條ノ規則ヲ用フ可キトハ第十一篇ノ追加ニ記載シタル所ノ千八百七十年十一月二十三日ノ同盟條約ノ規定ニ由ル可シ又其軍隊ノ入費ニ付テ第七十二條ノ規則ヲ用フ可キトハ_ハビエー_ルノ軍隊ノ爲ニ必要ナル金額ヲ_ハビエー_ルニ出シタルトヲ上院及下院ニ陳述ス可キトノミ

○普魯西

第九十九條 國ノ費額及入額ハ必ス豫メ計算シテ國計表ニ記載スベ

シ來年ノ出入ヲ豫算シテ表冊トナシ議院ノ公議ヲ取ル者之ヲ豫算表トス ○國計表ハ必ス毎年之ヲ定ムベシ 毎年前年ノ末ニ於テ政府ヨリ按テ發シ兩院議定スルヲ法ト得ズ ○ヒレブラシ氏ニ據ルニ出入豫算ノ公議ヲ取ルハ建國法ノ大節目ナリ然ルニ此事普魯西ニ於テ實際忽略スル者多シ

第一百條 國計表ニ記載シ若クハ別法ニ定タルニ非ルヨリハ租稅及貢

賦ヲ催スルコトヲ得ズ

第一百一條 租稅ニ付テ特免アルコトナシ均賦 ○現存セル凡テノ特免ハ

之ヲ廢スベシ 貴族ノ特免ハ中古ノ遺弊ナリ

第一百二條 政府官吏及邑吏ハ法ニ據ルニ非ズシテ科費ヲ催スルコトヲ

得ズ 官吏正稅ノ外ニ因縁科取スルコトヲ得ズ

第一百三條 法ニ據ルニ非レハ國債ヲ起スコトヲ得ズ 國債ハ國ノ大事故

○其凡政府ノ保証ニ係ルモノ並ニ之ニ同シ 銀行及諸會社ノ政府及銀幣ヲ發行スルノ類

第一百四條 實費國計表ヲ踰ル時ハ兩院ノ後認ヲ要ス 事前許可已ニ得

猶事後承 ○出納ノ統計ハ統計院之ヲ檢勘結定ス 政府ノ歲計ヲ檢勘設ク一歲ノ出納ヲ錄シ政府ヨリ統計院ニ付シ統計院檢勘シテ後ニ議院ニ付シ監視セシム佛國ノ制ニ倣ヘルナリ

○毎年ノ統計全表ハ一歲ノ出納ヲ錄スル者統計院ヨリ國債消却ノ部ニ注明ヲ

加ヘ議院ニ付スベシ ○別法統計院ノ構制及權限ヲ定ム

第一百九條 現行ノ租稅ハ舊ニ依テ收入スベシ 新法ノ催稅ニ非ラスヨリ

ヒレブラシ氏ニ據ルニ此條第九條ト實ニ相矛盾ス故ニ千八百五十年ヨリ千八百六十一年ニ至ル迄十二年間歲計曾テ前議ヲ經ズシテ舊ニ依ルノ名ヲ以テ收入シ議士亦優容シテ發セズ千八百六十二年ヨリ千八百六十六年ニ至ル迄四年間執政ト議院ノ爭此ニ由テ大ニ起ル是法ノ缺失ニシテ而シテ其實ハ千八百四十九年ノ立法家兩間ニ居中シテ政府ノ專裁ヲ存セシナリ千八百六十七年以後始テ

前年ノ末ニ後年ノ歳
計ヲ議スルニ至レリ

千九十二

○澳地利

第二篇第二十二條 國債検査ノ方法ハ別法之ヲ定ム

第三篇第二條 左ニ擧クル條件ハ通國ノ事務ニ非サレハ宜ク通國事
務ノ原旨ニ循テ處分スヘシ

第一 貿易事務就中稅關法ニ關スル諸件

第二 專ハラヲロジエクシオンアンジエストリエル人工ヨリ生ニ
屬スル間稅ノ法律

第三 貨幣條例及利子ノ制定

第四 帝國ノ兩部帝國議會ノ代理スル國トニ通スル鐵道線ニ關ス
ル牙利所屬ノ國トヲ云フ

ル規則

第五 内國防禦策ノ設定

第三條 帝國ノ兩部ハ皇帝ノ制可シタル帝國兩部議院ノ定時ノ判決
ニヨリ定ヘシ金額ノ割合ヲ以テ通國事務ノ費用ヲ支ユ此一件ニ付
兩部議院ノ說相協ハサルキハ皇帝宜ク帝國兩部ニ於テ支ユヘキ費
額割ノ合ヲ限定スヘシ然レ之ハ本年ニ限ル○帝國兩部ノ一ニ關ス
ル課稅ヲ決定スルノ權ハ特ニ各部ニ屬ス○然レ通國事務ノ費用ヲ
補足スルタメ通國ノ公債ヲ作スコトヲ得ヘシ而シテ凡該公債ノ決定
其享用并ニ還償ニ關スル事件ハ兩部ニ於テ合議スヘシ又帝國兩部
ノ議員各別ニ通國ノ公債ヲ作スヘキヤ否ヲ論定ス

第四條 帝國ノ各部ニ於テ責任スヘキ現今國債ノ額ハ兩部相互ノ契

千九十二

約ニヨリテ之ヲ規定スヘシ

○米利堅

第一條第十三節一 議院左ノ權力ヲ持ツ可シ

第一 直稅緩稅等種々ノ租稅ヲ取メ國債ヲ拂ヒ外寇ニ備ヘ國內ノ安寧ヲ全スル事但右緩稅等ハ合衆部中都テ一定ナルヘシ

第二 合衆國ノ名ヲ以テ金銀ヲ借ル事

第十四節四 上ニ云フ人口確實ノ調ヲ得人民ノ多少ニ從ヒ之ヲ定ルニ非レハ敢テ分頭稅ヲ收ム可ラス

第十四節五 何州ヨリ輸出スル物品ト雖モ直稅或ハ緩稅ヲ收ルコトナク各州ノ間公平ニ通商收稅ノ法ヲ立テ聊カ偏頗ナク又某州ニ往

キ某州ヨリ來ル船舶他州ニ於テ物品條目ヲ運上所ニ示シ或ハ其運上所ニテ要スル手數ヲ爲シ出帆都合ヲ付ケ又運上ヲ拂フ等ノ一莫カル可シ

第十四節六 規則ニ從テ配當スルニ非サレハ敢テ會計局ノ金銀ヲ出ス可カラス其公金ノ出納精算ヲ詳書シ常ニ之ヲ公告スベシ

第十五節二 議院ノ許准ヲ稟ケサレハ港内檢査ノ法ヲ行フニ必要ナルモノヲ除クノ外出入ノ輸品ニ稅ヲ收ム可カラス而シテ各州ニ於テ收ル出入稅銀悉ク之ヲ合衆國會計局ニ收メ其法則ハ乃チ議院ニ於テ之ヲ統轄シ或ハ之ヲ改革ス可シ又議院ノ許ヲ稟ケス何州ニテモ下ノ子一^{積荷ノ輕重ニ從}ヒ^{積荷ノ輕重ニ從}收ル稅ナリ^{積荷ノ輕重ニ從}ヲ掛ケ平日兵卒ヲ養ヒ軍艦ヲ備ヘ他州或ハ外國ト契約連合等ヲ爲スヲ得ス又現ニ外寇ヲ受ケ或ハ猶豫

ス可カラサルノ危難ニ非レハ妄ニ戦争ヲ作ス可カラス

○白耳義

第一百十條 國稅ハ法章ニ由ルニ非レハ定ルヲ得ス必ス議院ノ議ヲ經ルヲ云○

州稅ハ州會ノ承諾ニ非レハ定ルヲ得ス○法章州稅邑稅ニ係テ其經驗ニ據リ已ムヲ得ザル者ノ特例數條ヲ定ヘシ州會ノ承諾ヲ必要シ得ザル者

第一百十一條 國稅ハ毎年公議ス議院ニ於テ議決ス○國稅ヲ定ルノ法章ハ其力

ヲ有スルヲ一年ニ限ル一議數年ニ涉但一案再用スル者ハ例ニアラス前年ノ法章更ニ新議ヲ經テ後年ニ適用スルヲ云

第一百十二條 租稅ニ係テ特免アルヲ得ス○租稅ノ免除及減分ハ法

章ニ由ルニ非レハ設ルヲ得ス特免ハ中古貴族稅ナキノ類免除減分ハ老廢孤貧ニ施スノ類

第一百十三條 法章明ニ定タル特例ヲ除クノ外國州邑ノ正稅ニ非スシ

シテ國民ヨリ一ノ課賦ヲ責ルヲ得ス○現ニ行レタル防海堤稅河

渠稅普通法章ニ從フ者ヲ除クノ外更ニ新法ヲ加フルヲ得ス

第一百十四條 國庫ヨリ支出スヘキ養料老退官員養料賞賜ハ法章ニ据

ルニ非レハ給與スルヲ得ス

第一百十五條 毎年兩院ハ統計前年ノ法章ヲ決シ檢査ノ後統計及豫

算來歲ノ出入ヲ評定ス○政府一切ノ出納ハ必ス豫算表及統計表ニ載ス出納ノヘシ公布

第一百十六條 統計院ノ官員ハ代議士院之ヲ撰任シ法章定ル所ノ任期

ヲ以テ代任ス一任○統計院ハ政部全局ノ出納及國庫ヨリ支出スル

一切ノ會計ヲ檢査清算スルニ任ス○豫算表ノ支費ニ於テ一項ノ過

費アルコナクヲ越エス又一ノ那移アルコトヲ無キコトヲ監ス○政府各部ノ統計ヲ決シ就テ一切ノ憑据一切ノ文票ヲ拾聚スルニ任ス○國計全表ハ毎年統計ヲ公布スルノ書統計院注明ヲ加ヘ兩院ニ付シ議ヲ取ル○統計院ノ構制ハ法章之ヲ定ム

第百十七條 僧官ノ俸給養料ハ政府ヨリ支出シ其定額ハ毎年豫算表ニ載ス僧門私産ノ弊ヲ除ク

○瑞典

第五十八款 尋常ノ集會毎ニ國王ハ必ス國中會計ノ模様ヲ書面ニ認メ一切ノ出納公債等ヲ明記シ議院ニ差出スヘシ若シ外國ト條約ヲ取結ヒタルカ爲ニ一定ノ金額ヲ仕拂フヘキ時ハ之ヲ前文ノ手續同

様ニ取計フ可シ

第五十九款 若シ國用多端ニシテ定額ノ歲入ヲ以テ之ヲ支ユルニ足ラサルハ國王ハ國中會計ノ模様ト其緩急ノ次第トヲ議院ニ差出ス同時ニ租稅ヲ賦シテ之ヲ補足スヘキ方法ヲ報知ス可シ

第六十款 租稅トハ海關稅間稅郵信稅家釀火酒ノ印稅及集會毎ニ課定スル處ノ諸人頭稅ヲ含ム者ト知ル可シ穀物ノ輸出入稅ヲ除クノ外總テ王國ニ拂フヘキ諸稅ハ如何ナル名目品種ニ拘ラス議院ノ承諾ヲ俟タスシテ之ヲ増加スルコトヲ得可シ○國王ハ其一身或ハ一國或ハ格段ノ人民ハ會社ノ利益ヲ謀ルカ爲ニ國ノ歲入ヲ他ニ假貸ス可ラス又專賣ノ株式ヲ設ヘカラス

第六十一款 前款ニ載ル所ノ名目ヲ以テ議院ニテ發言スル處ノ諸稅

ハ其歳末迄之ヲ收納シ而シテ議員ノ集會ニ於テ再ヒ之ヲ議定ス可シ
第六十二款 議院ニ於テ國費切迫セシニ相違ナキ旨ヲ承認スルハ
右經費相當ノ需用ヲ募リ并ニ其高ヲ議定スルノ議論ニ及フ可シ但
收納ノ上ハ之ヲ諸用ニ充タシ且之ヲ歳計簿ニ記スヘシ

第六十三款 右ノ外非常用意トシテ公債局ニ於テ充分ナル儲金ヲ募
リ之ヲ甲乙ノ二口ニ仕分ケ置クヘシ甲ノ儲金ハ國王内閣大臣ニ諮
詢シ其意見ヲ聽キタル上ニテ之ヲ支出セサレハ止ム可ラサル緊急
ノ事出來スルハ之ヲ取テ國ノ防禦其他重大ノ要費ニ供スルヲ
得ヘシ乙ノ儲金ハ戰爭ノ時國王内閣大臣一体ニ商議シ議院ヲ召集
シ其上ニテ使用ス可シ○此儲金ハ議院ニテ封印ヲ付シ置キ而シテ議
院集會ノ旨ヲ都府ノ禮拜堂ニテ公告スルノ后ニアラサレハ公債局

ノ委官ト雖モ開クヲ許サス

第六十四款 國王平常ノ財用并歳入ハ前款ノ趣ニ基キ議院ニ於テ募
收シタル諸金額即チ非常ノ國用ト稱スル者ト俱ニ國王之ヲ仕拂フ
テ要用ヲ辨ス可シ但之ヲ仕拂フニハ議院ノ承認ヲ得テ且濫費ナキ
ヲ要ス

第六十五款 右收納ハ前款ニ掲タル用途ノ外ニ仕拂フ可ラス若シ之
ヲ仕拂フ時ニ内閣大臣其草案ニ意見ヲ記サス又之ヲ仕拂フヘキ議
院ノ差圖アリシコトヲ言サル者ハ乃チ其責ニ任シテ濫用ノ罪ヲ免ル
可ラス

第六十六款 公債局ハ議院ノ管轄ニ屬シテ諸務皆其指令ヲ以テ施行
ス可シ議院ハ此局ヲ管轄スルニ付公債ノ仕拂ヲ保証シ且審カニ會

計ノ模様ヲ検査シ時宜ニ依リテハ別段ニ收納ヲ募リテ公債仕拂ノ手段ト爲シテ之カ元利ヲ償ヒ以テ國債ヲ維持シテ墜サ、ル可シ

第六十七款 公債局ニ勤仕スル處ノ國王ノ委官ハ議院ノ委官ノ集會スル時ニ其望所アルニ非サレハ商議ノ席ニ列ス可ラス

第六十八款 公債ノ用途ニ屬シ又之ニ充タスヘキ金額ハ何等ノ時宜ニ至リ何等ノ名義アリト雖モ議院ニ於テ決定シタル目的ノ外ニ使用ス可ラス○故ニ此金額ニ觸ル、處ノ命令ハ總テ無効ナリトス

第六十九款 會計課ヨリ國費ヲ辨理スル方法并ニ之ニ相當シタル租稅徵收方ノ建白ヲ議院ニ差出ス時ハ其公債局ノ費用ニ屬シ或ハ此局ヲ處置スル根本タルニ拘ラス總テ各代人撰擧ノ法律中ニ在ル手續ニ照シテ取扱フ可シ○議院ノ兩局各自ノ意見ヲ執テ一和シ難キ

時ハ各局ニ於テ發言ノ多少ヲ計算シ其多數ノ方ヲ以テ議院ノ決議ト看做スヘシ

第七十款 若シ國立銀行ノ管轄入費等ノ議論ニ就テ兩局ノ意見ニ不同アルモ又前款ノ規則ニ從ヒ兩局各自ニ發言ノ多少ヲ計算ス可シ

第七十一款 租稅ノ基本并ニ之ヲ使用スル方法并ニ租稅仕拂ノ分配ニ就テ兩局ニ異見アルモ亦同様ノ手續ヲ以テ決定ヘシ

第七十三款 向後新規ノ租稅生兵ノ召募并ニ貨財ノ需索等ハ議院ニ於テ承知及満足シ而シテ前款ノ手續ニ照スニアラサレハ決シテ之ヲ命令シ徵收スルコ勿ル可シ

第七十四款 假令兵端開ケルコアルモ其地方ハ行軍中其要需ヲ扶持

スルニ過キス國王ハ決シテ要需ノ外ヲ徵求ス可ラス但其行軍スル他ノ地方ニ於テ之ヲ扶持シ能ハサルキハ格別ナリトス○然レ右要需ヲ差出シタル者ハ他日半價以上ヲ以テ政府ヨリ償却ス可シ右要需ハ其地方ニ屯營シ又戰時ニ行軍スル處ノ軍兵ノ爲ニ徵求スルヲ許サス斯ノ如キハ其爲ニ設立シタル官庫ヨリ軍兵ノ糧食ヲ支給スヘシ

第七十五款 毎年ノ市價ハ議院ニテ撰擧シタル委官其特命ヲ奉シテ定ヘシ○此委官ニテ決定スル處ノ者ハ別段ノ請求ニ依テ其体裁ヲ立テ改正ヲ加ルニアラサレハ之ヲ規則ト看做スヲ要ス

第七十六款 國王ハ議院ノ允准ヲ得ルニアラサレハ王國內外ニ於テ新債ヲ募ル可ラス又之ヲ國債ト爲ヘカラス

第七十九款 議院ノ允准ヲ經ルニ非レハ諸貨幣ノ品位ヲ増減シ改造スルヲ許サス但此規則アルカ爲ニ國王ノ貨幣ヲ鑄ルノ權ヲ削ルニアラス

第九十款 若シ希望スル處ニ反シテ議院其散會ノ時ニ至テハ尙國費ヲ預備セス或ハ租稅ノ課額ヲ決定セサル時ハ其次ノ議院ノ集會スル迄ハ國費稅額等總テ舊慣ニ仍ル可シ○若シ稅額ハ決定スルモ未タ其徵收法ニ付テ兩局ノ議一和セサル時ハ其議院ニテ定ル所ノ稅額ヲ以テ先會ノ議院ニテ決スル所ノ徵收法ニ從ヒ其多少ニ應シテ増減ヲ加フ可シ○此時機ニ於テハ議院ヨリ銀行公債局ノ委官ニ命シテ其根基タル定度ト新例トヲ設立セシム可シ

○西班牙

第三十六條 組稅及國債ニ關スル法律ハ先ツ之ヲ代議士院ニ附スヘシ

第七十四條 政府ハ每歲翌年ノ國費豫算ノ概表及國費ヲ支ユ可キ方法ノ意見書ヲ國會ニ送致ス可シ且租稅ノ徵收及其費用ノ報告書ヲ國會ニ併セ送リ以テ其檢査ト承認ヲ受ク可シ

第七十五條 何レノ租稅若クハ入府稅府内ニ輸入スルニテモ物品輸入スルニテモ課スル稅ニテモ歲計豫算表ノ法律若クハ其他ノ特別ノ法律ヲ以テ許認スルニ非サレハ之ヲ賦課徵收スルヲ得ス

第七十六條 政府ノ所有ヲ賣リ或ハ之ヲ易ユルヲ若クハ國民ノ責任ニ關セル國債ヲ約スルニハ亦前條ノ許認ヲ欠ク可カラス

第七十七條 國債ハ國民ノ特別ナル保固ニ賴ル代議士員等每歲論議公評シテ法律ヲ定メ

歲計豫算表ニ因リ漸ク國債ヲ償還スルヲ云フ

增補第四條 租稅上納ノ要款若干ノ租額ヲ納サレハ代議士タルヲ得サルノ約若クハ歲入所有ノ要款若干額ノ歲入ヲ受用スルニ非サレハ代議士タルヲ得サルノ約保存ス可キト否トハ國會ニ出ス代議士ノ撰擧法以テ之ヲ定ム

第七條 例年ノ歲計豫算表法ニ付キ立法兩院議院ノ議相協ハサル時前年ノ歲計豫算表ノ法ヲ準用ス可シ

第十五條 政府ハ國會ノ開會ヨリ八日以内ニ前年ノ決算表及翌年ノ豫算簿ヲ代議士院ニ下附スヘシ

○瑞士

第二十一條 聯邦ハ其費用ヲ以テ瑞士全國ニ關スル公ノ工業若クハ本國ノ大部ニ關スル公ノ工業ヲ命シ又補助銀ヲ給シテ之ヲ勸奨スルコトヲ得○之カ爲ニ聯邦ハ應當ノ償金ヲ給トシ私有地ノ沒收ヲ命スルコトヲ得但聯邦ノ法律ヲ以テ該件ニ關スル嗣後ノ條則ヲ規定スヘシ○聯邦議會ハ聯邦ノ軍事ヲ妨害スル公ノ建築ヲ禁制スルコトヲ得可シ

第二十三條 關口稅ニ關スル事件ハ聯邦ノ處分ニ屬ス

第二十四條 聯邦ハ償金ヲ給與シテ水陸通運稅品物過界稅橋堤通行關口稅及其他此種ノ租稅ノ列邦邑會區若クハ平民ノ收入ニ屬スル者タルニ拘ラス全部或ハ一部廢止シ國會即チ聯邦議會ニ於テ許シ若クハ認タル者ノ全部或ハ一部ヲ廢止スルノ權ヲ有ス然レ堤稅及

品物過界ニ課スル通運稅ハ瑞士全國内ニ於テ皆辨償廢止ス可シ堤稅及品物過界ニ課スル通運稅ニ限リ其全部ヲ廢ス聯邦ハ瑞士國境ニ於テ輸出入稅及品物過界稅ヲ收入スルコトヲ得可シ○聯邦ハ償金ヲ糾與シテ現時瑞士國境ノ通運稅局ニ定タル屋舎ヲ購求シ又借テ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第二十五條 聯邦通運稅ノ收入ハ左ノ原則ニ依準シテ規定スヘシ

第一 輸入稅

- 甲 本國ノ工業ニ須要ナル物料ハ務テ其稅額ヲ低フ可スシ
 - 乙 生活ニ須要ナル物料モ亦其稅額ヲ低フスヘシ
 - 丙 奢侈ノ物品ハ最モ其稅額ヲ高フス可シ
- 第二 品物過界稅其他ノ總輸出稅ハ務メテ其額ヲ寬ニス可シ

第三 通運税法ハ國境及互市場ノ貿易ヲ保固スルニ適當ナル規則ヲ含有ス可シ然レ之カ爲ニ異常ノ形狀アルニ際シ聯邦ニ於テ暫ク特例ノ處分ヲ爲スヲ妨ルコナシ

第二十六條 輸入税及品物過界税ニ付聯邦通運ノ收額ハ左ニ掲ル所ニ從テ享用スヘシ

甲 列邦ハ千八百三十八年ノ人別調査ニ準シ邦民一人毎ニ四區幣ノ十五區サンナムニ當ル貨幣ノ名「バス」ハ大抵佛國貨ヲ領取ス可シ

乙 列邦ハ右配賦金ヲ受ルト雖レ其第二十四條ニ掲ル租税ヲ廢スルニ因テ生シタル損失ヲ全ク償ニ足サレハ千八百四十二年ヨリ同四十六年ニ至ルマテノ五ケ年收税實則金收税ニ關スル費用ヲ引去リタル純ノ平均額ニ由リ廢税ノ償トシテ須要ナル金額ヲ領取ス益金

可シ

丙 通運收税金ノ消費セル殘額ハ聯邦ノ金庫ニ納ム可シ

第二十七條 建築ニ供用ス可キ入費ノ金額若クハ其一分ヲ還償スル爲ニ通運税若クハ橋堤税ヲ課シテ償金トスルコトヲ許認シタル時ハ其收金額ヲ以テ建築入費ノ元利金ヲ償フニ足ニ至レハ即時ニ之カ收入ヲ廢止ス

第二十八條 前條ノ規則ハ以テ鐵道ヲ發起スル會社ト取結ヒタル契約ノ品物過界税ニ關スル條款ニ推及ス可カラス○但聯邦ニ已ノ爲ニ鐵道發起ノ契約ニ由リ品物過界税ノ收入ニ係タル列邦ト豫定セル稅額ヲ收ム鐵道發起會社ニ許シタル品物過界税ハ該社之ヲ收入セシメ其列邦ニ許シタル者ハ聯邦之ヲ收ス

第二十九條 飲食獸畜商貨其他土地工業ヨリ生スル產物ノ自由賣買

及甲ノ列邦ヨリ乙ノ列邦ニ於ル自由出入及通運等ハ聯邦全土皆之ヲ保固ス但左ノ件々ヲ除ク

甲 買賣上ニ於テハ鹽稅火藥稅ヲ取立ル事

乙 貿易工業ノ警察及道路ノ警察ニ關スル列邦ノ規則

丙 屯貨ヲナスヲ防ク規則

丁 傳染病及獸類傳染病流行ノ時健康警察ニ關スル暫時ノ方法

○乙丙二件ノ規則ハ國民及他ノ列邦人民ニ對シテ均一ナル可シ此規則ハ聯邦行政會ニ其調査ヲ受ケ之カ承認ヲ得タル後ニ非サレハ執行スルコヲ得ス

戊 國會ニ因リ准許シ又保存シテ聯邦ニ於テ未タ廢止セサル租

稅第二十四條第
三十一條參看

己 第三十二條ノ規制ニ依準セル葡萄酒其他ノ精酒類ノ下ロア

ドコンソヘシオン消費稅 ○總テ精酒類ニ課スル稅ヲ消費稅ト云フ

第三十條 聯邦ハ凡テ列邦相互ノ間又列邦内ニ於テ人身及諸物品ノ

水陸運漕ニ關スル特准ヲ廢スルニ須要ナル規則ヲ裁定ス可シ但其

聯邦ニ關係スル者ニ限ル聯邦ニ得失ナキ瑣細ノ特准ハ措テ問ハス

第三十一條 第二十九條戊ノ項ニ掲タル稅金ノ徵收ハ聯邦行政會ニ

於テ監察ス可シ又聯邦議會ノ准許アルニ非サレハ其稅額ヲ多クスルコヲ得ス又其收稅ノ期限ヲ豫定セル者ハ擅ニ其期ヲ延スコル得可カラス○列邦ハ何レノ名義ニ由ルモ新ニ通運稅又橋堤稅ヲ定ルコヲ得可カラス然レ聯邦議會ハ第二十一條ニ依準シ貿易上ニ於テ全國ノ公益トナル可キ建築ヲ勸獎スル爲メ通運稅及其他之ニ類ス

ル租税ノ收斂ヲ准許スルヲ得可シ但此建築ハ聯邦會議ノ准許ヲ得ス

第三十二條 第二十九條戊ノ項ニ掲タル租税ノ外ニ列邦ハ左ノ制限

ニ從テ葡萄酒及其他ノ精酒類ニ消費税ヲ課スルコトヲ得可シ

甲 消費ヲ收斂スルヲ以テ決シテ品物過界税ヲ重クス可カラス

而シテ消費税ヲ收斂スルヲハ他ノ税ヲ課スルヲ得サル所ノ貿

易上ニ務テ薄ク之ヲ課ス可シ

乙 消費スル爲ニ輸入セル物品ヲ再セ輸出スルハ先ニ輸入ス

ル爲ニ收タル税金ヲ還付シ別ニ税ヲ課スルヲナシ

丙 瑞士産ノ物品ハ外國品ヨリハ其税ヲ輕クス可シ

丁 瑞士産ノ葡萄酒其他ノ精酒類ニ現時課スル所ノ消費税額ハ

其税ヲ收ル列邦ニ於テ隨意ニ之ヲ高フスルヲ得ス又現時消

費税ヲ收サル列邦ニ於テ新ニ右酒類ニ税ヲ課スルヲ得ス

戊 消費税ノ收斂ニ關スル列邦ノ法律及決定ハ之ヲ執行スルニ

先チ聯邦政官ノ認可ヲ受ケ以テ聯邦政官ヨリ要スルニ從テ列

邦ヲシテ前諸規則ニ注意セシム可シ

第三十三條 聯邦ハ左ノ規則ニ依準シテ全瑞士國ノ驛遞事務ノ管理

ス

第一 驛遞事務ハ概シテ之ニ關係スル列邦ノ承認ナケレハ其現時

ノ景況ヨリ減縮ス可カラス

第二 郵便税モ亦第一項ニ同キ原則ニ準シ務テ瑞士全國ニ於テ其

價額ヲシテ平均ナラシム可シ

第三 信書秘密ノ侵ス可ラサルヲ保固ス

第四 聯邦ハ驛遞權ヲ列邦ヨリ取テ後之ニ其償ヲ給ス可シ

甲 列邦ハ每歲千八百四十四五六ノ三年間本邦郵便稅實利金ノ平均額ヲ領受ス○然レ聯邦ハ郵便稅ヨリ得ル所ノ實利金ヲ以テ右償金ヲ辨スルニ足サル時ハ其得ル所ノ實利ニ比率シ償金ノ額ヲ減少シテ列邦ニ給與ス可シ

乙 列邦自ラ驛遞權ヲ受用スルニ由テ直接ニ收稅セサル時列邦政府驛遞權ヲ邦民若クハ會社ニ委託シテ該邦民若クハ會社ヨリ間接ニ其稅ヲ納ルヲ謂フ又他ノ列邦ト取結タル驛遞條約ノ故ヲ以テ其得ル所ノ實利却テ少ク且本邦ニ於テ驛遞權ヲ受用スル時ハ償金ヲ定ムルニ當リ公平ニ其景況ヲ酌量ス可シ

丙 平民ヲシテ驛遞權ヲ受用セシメタル時ハ聯邦ヨリ之ニ償フ

可シ

丁 聯邦ハ應當ノ償ヲ給シテ驛遞事務ニ屬シテ其用ニ適當シ且須要ナル物具ヲ購求スルノ權義ヲ有ス

戊 聯邦驛遞局ハ償金ヲ給シテ現時驛遞ニ供用スル家屋ヲ購求シ又借受スルノ權ヲ有ス

第三十四條 通運稅局及驛遞局ノ官吏ハ大抵該局ヲ設置スル列邦ノ人民中ヨリ選任ス可シ

第三十五條 聯邦ハ其保存ス可キ所ノ道路橋梁ヲ監督ス又聯邦政官ハ之ニ關係スル列邦鄉保若クハ平民此等ノ道路橋梁ニ應當ノ修補ヲ加ヘサル時第二十六條及第三十三條ニ依リ列邦ニ給與ス可キ金額ヲ停ム可シ

第三十八條 火藥ヲ製造シ及之ヲ販賣スルコトハ全瑞士國ニ於テ特ニ
聯邦ニ屬ス

第三十九條 左ノ金額ヲ以テ聯邦ノ費用ヲ支ユ

甲 聯邦軍備金ノ利子

乙 瑞士國境ニ於テ收斂スル聯邦通運稅ノ益金

丙 驛遞ノ益金

丁 火藥ノ益金

戊 聯邦議會ノ決定ノカニ由ルニ非レハ收斂スルコト能ハサル列
邦ノ租稅○右租稅ハ二十年毎ニ查正ス可キ所ノ課稅表ニ準シ
テ列邦ヨリ收納ス○課稅表ヲ查正スルニハ列邦ノ人口貧富及
及其產業ヲ察シテ之カ基礎トナス可シ

第四十條 聯邦ノ金庫ニハ聯邦兵ヲ徵集スル軍費ヲ助ル爲ニ平常少
ク凡列邦ヨリ納ル、所ノ租稅ニ倍スル金額ヲ貯藏ス可シ

第五十二條 兩國互ニ契約スル場合ノ外外國ニ對スル地方商貨稅モ
亦之ヲ廢ス

○葡萄牙

第三十六條 國租ノ出納ハ國庫ト名クル法衙ニ委任スヘシ該法衙
ハ法律ニ依リ適宜ニ定タル諸局ヲ置テ國租ノ管理徵收及理財法ヲ
規定スヘシ

第三十七條 國債ノ利子并ニ其還償ニ供備スヘキ租稅ヲ除クノ外
凡直稅ハ每歲國會ニ於テ規定スヘシ然レ該直稅ヲ廢止シ若クハ改

置スルノ日ニ至ルマテハ舊ニ仍テ之ヲ存置ス

第三百十八條 大藏卿ハ他省ノ卿ヨリ本省ノ支費豫算表ヲ交收シ國
會ノ集合スヘキ毎歲代議士院ニ國庫前年ノ出納總決算表及明年
ノ國費並ニ總租稅國人ノ總豫算表ヲ具送スベシ 増補律例第十二條
公評ス租稅ヲ定タル法律ハ一歲ヲ限リ之ヲ施行ス○公費ノタメニ
公評シタル租額ハ特別ノ法律ニ由リ其那移(甲件)ノ用途ヲ乙件ノ
用途ニ移シ用ユルヲ云フ許認スルノ外他件ノ支費ニ享用スルコ
ヲ得ス 第三〇國入ノ管理及收斂ハ法律ニ定タル時例ヲ除キ皆國庫
ニ於テ之ヲ施行ス 第三三條ニ由リ其攝制職掌ヲ規定スヘキ會計
院ヲ置クベシ 第三三條ニ由リ其攝制職掌ヲ規定スヘキ會計
日ヨリ一月内ニ前年ノ出納豫算表ヲ該議院ニ送付スベシ及其建設ノ
六七八條ヲ修正
スルヲ斯ノ如シ

○荷蘭

第一百十九條 王國ノ出納豫算表ハ法律ヲ以テ定ム

第一百二十條 歲計豫算表ニ管スル法律議案ハ連歲該豫算表ニ係ル前
年ニ當リ國會ノ通常會ノ通常會期ヲ開キタル後即時ニ國王ノ名ヲ
以テ下院ニ送附ス

第一百二十一條 歲計豫算表中支費ノ各章ニハ各省ニ管スル支費ヲ特
記ス○支費ノ各章ヲ以テ或ハ一箇ノ法案トナシ或ハ數箇ノ法案ト
ナス法律ヲ以テ此章ヨリ彼章ニ支費ヲ移易スルコトヲ許認スルヲ得

第一百二十二條 每歲ノ出納決算表ハ統計院ニ於テ承認シタル簿册ニ
併セ立法官ニ送附ス○出納精算ノ差額ハ法律ニ由テ整頓ス

第一百七十一條 凡法律ニ依ニ非レハ國租ヲ定立スルコトヲ得ス

第一百七十二條 租稅ニ係リ苟モ特准ヲ與フルコトヲ得ス

第七十三條 政府ヨリ其債主ニ對スル義務ハ保固トス國債ハ毎歲
債主ノ利益ヲ量リテ考訂ス

第七十四條 法律ハ貨幣ノ斤量品性及其價直ヲ規定ス

第七十五條 貨幣事務ヲ監護スルコト及貨幣ノ品性検査等ニ付テ起
タル爭ヲ判決スルコトハ法律ヲ以テ定ム

第七十六條 統計院ノ設置及權任ハ法律ヲ以テ定ム○國王ハ國會
ノ下院ヨリ上奏スル三員ノ應撰人姓名表ニヨリ撰テ統計院ノ缺員
ヲ補任ス○統計院ノ僚員ハ終身其職ニ任ス其俸給ハ法律之ヲ定ム
○第六十三條第二節ハ統計院ノ僚員ニ準用スベシ

○丁抹

第四十七條 一法律ノ力ニ由ルニ非スシテ賦稅ヲ定メ或ハ變更シ及
之ヲ免除スルコトヲ得ス又一法律ノ効ニ由ルニ非レハ兵士ヲ募リ及
國債ニ付テノ約束ヲ定メ或ハ政府ニ屬スル土地ヲ讓ルコトヲ得ス
第四十九條 豫算表ノ決定ニ由ルニ非サレハ租稅ヲ賦ス可ラス豫算
表及格別ナル費額ノ決定書ニ由ルニアラスシテ國財ヲ使用スルコ
トヲ得ス

第十五 國憲修正

○佛蘭西一千九百一十一年

第二百三條 今般憲法會ニ於テ國民已ノ憲法ヲ改正スルノ權ハ限リ
ナカル可キコトヲ公告ス尤其憲法ノ内經驗ヲ得テ障礙ヲ生スルコトノ
顯ハレシ箇條ヲ改正スルニ憲法ニ定タル法式ヲ以テ之ヲ爲スルハ
國民ノ爲ナルヘシト勘考セシ故ニ左ノ法式ヲ以テ一ノ改正ノ公會
ニ之ヲナサシムヘキヲ定ム

第二百四條 民選議院ノ議員已ニ三回交代セシト二年目ニ雖正憲法
ノ何條ヲ變革センコトヲ其會席毎ニ逐次願シ節ハ其箇條ヲ必ス改正
スヘシ

第二百五條 此後集會スヘキ第一回ノ民選議員及其後集會スヘキ第

二回ノ民選議員ハ何レノ憲法ノ箇條ノ改正ヲモ進願スルヲ得ス
 第二百六條 憲法ノ改正ヲ進願スルヲ得ヘキ民選議員ノ會席即チ第
 三回及第四回ノ民選議員ハ其末年會席ノ終リノ二ヶ月月中ニ右憲法ノ
 改正ノ事ヲ爲ヲ得可シ第五回ノ民選議員ハ右憲法改正ノ事ヲ初年
 會席ノ終リ或ハ末年會席ノ始ノミ之ヲ爲ヲ得可シ民選議員ノ會席
 ノ期限二年ト定
 シニ因テ前文ノ第二百四條第二百五條第二百六條ノ主意ハ憲法ヲ
 布告セシ上四年過タル後其憲法ノ改正ヲ進願スルヲ得ヘシ且六年
 間續テ其改正ヲ願ハサレハ○憲法ノ改正ニ關スル民選議員ノ評議
 ノ法式ハ立法ニ關スル民選議員ノ評議ノ法式ト同様ナルヘシト雖
 凡其憲法ヲ改正センコトヲ進願スル布令ハ國王ノ確定ヲ受ルニ及
 ス

第二百七條 後ノ第六回ノ民選議員ノ議員ノ數ニ二百四十九名ヲ添

ヘテ憲法改正議院ヲ編制ス可シ各洲ハ已ノ爲メ民數ニ基イテ定
 一○前文ノ第三篇第
 一章第一款見合セ此二百四十九人ハ各州ヨリ撰任スヘキ通例ノ議
 員ヲ撰ヒシ後撰任スヘシ且其爲メ格段ノ調書ヲ作ルヘシ憲法改正
 議院ハ一ニシテ分ツヘカラサル者トス

第二百八條 憲法ノ改正ヲナスヘキコトヲ進願セシ第五回ノ民選議員
 ハ憲法改正議院ニ選任スヘカラス

第二百九條 憲法改正議院ノ議員ハ自由ニ生スル能ハサレハ寧口死
 スヘシトノ誓ヲ共ニ建テ、後各人ヲシテ左ノ誓ヲ立シムヘシ

「我前三箇ノ民選議院ト同様進願セシ事件ニ就テノミ決議スヘシ且
 千七百八十九年千七百九十年及千七百九十一年ニ憲法議院ヨリ布
 告シタル國ノ憲法ヲカヲ盡シテ保護スヘシ且孰レノ事ニ就テモ國

家ト法律ト國王トニ對シ忠義ヲ竭スヘシ

第二百十條 憲法改正議院ハ己レニ進達シタル事件ヲ直ニ爲ヲ得ヘシ且其評議ノ所業終リ次第加員ノ二百四十九人ハ立法ノ所業ニ關係セズ退散スヘシ

一 亞細亞阿弗利加及亞米利加ニアル佛蘭西屬國ハ前文ノ憲法ニ

關スルコナシ

二 憲法ニヨリテ設立シタル孰レノ官モ此憲法ノ全部ヲ變改シ或

ハ其内孰レノ細條モ改正スヘカラス但第七編ニ定タル手續ヲ以テ爲セシ改正ハ格別ナリ

一 尙此建國法ノ保護ハ國會ニ於テ之ヲ民選議院ト國王ト裁判役トノ忠義ニ依頼シ家長妻母ヲシテ之ニ注意スルコトヲ命ス猶幼年者ノ愛情總テ佛蘭西國民ノ勇氣ニ之ヲ任預ス

一 右憲法上ニ掲載セサル事ト雖モ既ニ憲法議院ヨリ爲セシ布令ハ法律トシテ執行セシムヘシ又右憲法上ニ改サル舊法ハ民選議院ヨリ之ヲ廢シ或ハ改正スル迄ハ依然トシテ執行スヘシ

○佛蘭西 一千七百九十三年

第百十五條 若シ佛蘭西ノ州ノ全數ノ中過半ノ州ニ於テ法律ニ循テ編制シタル下會ノ十分一憲法ノ改革或ハ憲法ノ何條ヲ改正セント願フモハ民選議院ハ憲法改正議院ヲ召集スヘキヤ否ヲ尋問センカ爲メ共和國ノ總テノ下會ヲ召集スヘシ

第百十六條 憲法改正議院ハ民選議院ト同様編制スルモノニシテ民選議院ノ諸權ヲ有ス

第十七條 憲法改正議院ハ召集シテ改正スベキ憲法ノ箇條ノ外憲法ノ他條ニ管スヘカラス

○佛蘭西 一千七百九十五年

第三十六條 建國法ノ内其經驗ヲ得テ障碍ヲ生スヘキト顯ハレシ箇條アルハ老人議院之ヲ改正スルコトヲ勸告スヘシ

第三十七條 右場合ニ於テ老人議院ノ勸告シタル條件ハ五百員議院ノ承諾ヲ請フヘシ

第三十八條 五百員議院ヨリ確定シタル老人議院ノ勸告ハ九年間ニ三年間ヲ隔テ三度爲シタルハ憲法改正會議ヲ召集スヘシ

第三十九條 憲法改正會議ハ各州ヨリ議員二人ヲ選任セシメ之

ヲ以テ編制スル者ニシテ其選任ノ方法ハ民選議院ノ爲ノ選任ト同シ且憲法改正會議ノ議員トナル爲ニ國民ニ於テ適當節要スル條件ハ老人議院ノタメ定タル條件ト同シカルヘシ

第四十條 憲法改正會議ノ集會スル所ハ民選議院ノ會席スル所ヨリ小クモ微萬^一/_トル^二三^三尺^三寸^三ヲ隔ツルコトヲ要ス

第四十一條 憲法改正會議ハ己ノ會席所ヲ移轉スルヲ得ヘシ尤前條ニ記シタル距離ヲ守ラサルヲ得ス

第四十二條 憲法改正會議ハ立法上或ハ政事上ノ孰レノ事務ヲ勤サル者ニシテ民選議院ヨリ己ニ示シタル憲法ノ箇條ヲ改正スルコトニノミニ管スヘシ

第四十三條 憲法改正會議ヨリ勸告シタル憲法ノ改正ハ佛蘭西

國民ノ承諾スルマテハ憲法ノ箇條盡ク續テ行フヘシ

第三百四十四條 憲法改正會議ノ議員ハ相共ニ協議ス

第三百四十五條 憲法改正會議ヲ召集スルハ既ニ民選議院ニ屬スル者ハ憲法改正會議ノ議員ニ選任セラルヘカラス

第三百四十六條 憲法改正會議ハ其定タル改正ノ見込書ヲ直ニ國中ノ下會ヘ送ルヘシ且之ヲ送リシ後解散スヘシ

第三百四十七條 孰レノ場合ニモ憲法改正會議ハ三ヶ月ヨリ長ク會席スル能ハス

第三百四十八條 憲法改正會議ノ議員ハ其勤務中發言或ハ記セシトニ就テ之ヲ搜索及告訴シ或ハ裁判スヘカラス又右議員ハ在勤中ナレハ憲法改正會議ノ決定ニ因サレハ之ヲ裁判スヘカラス

第三百四十九條 憲法改正會議ノ議員ハ孰レノ公然ノ禮席ニモ整列シテ出ルヲ得ス且其議員ハ民選議院ノ議員ノ爲メ定タル扶助金ヲ受ヘシ

第三百五十條 憲法改正會議ハ已ノ會席スル處ノ邑ニ於テ取締ヲ管理シ或ハ管理セシムルヲ得ヘシ

第三百七十五條 建國法ヨリ設立シタル孰レノ官モ前第十三編ニ記スル所ニ從テ爲シタル建國法ノ改正ノ外ハ建國法ノ全部或ハ一部ヲ變改スルノ權ナシ

○佛蘭西一千八百

共和政事八年ノ建國法ヲ制立スル爲メ發シタル元老院ノ建國決定書

右ハ千八百二年八月四日ニ發シ國民ハ三百五十
 六萬八千八百八十五投票ヲ以テ之ヲ可ト定タリ
 ○護法元老院ハ建國
 法ノ第九十條ニ定タル數ノ議員集マリテ當日附共和國宰相ノ告書ヲ
 檢シ右告書ノ文意ハ建國法ヲ制立スルニ元老院決定書ノ議案ヲ元老
 院ヘ勸告スル爲メ政府ノ發議人三人ヲ當院ヘ出頭セシムルコトナ
 リ又同日附共和國第一等ノコンシユルノ決定ニヨリ右發議ノ職務ヲ
 委托シタルコトニ匹ポルタリ及テソノ名ト云者國議院議官ノ元老院
 へ進呈シタル元老院決定書ノ議案ヲ檢達シ右議案ニ付テ政府ノ發議
 人ノ論辨ヲ聽入レ且當月十一日ニ已ノ議員ノ内委任シタル委員ノ届
 書ニ基キ決議ヲ爲シテ各條ヤヲ布告ス

○佛蘭西一千八百
 〇四年

皇帝政事ヲ設立スル元老院ノ建國決定但右ハ千八百四年五月十八日

ニ發シ且國民ハ三百五十七萬二千三百二十九投票ヲ以テ之ヲ承諾セ
 リ○護法元老院ハ建國法ノ第九十條ニ定タル數ノ議員集マリテ千八
 百二年八月四日元老院建國決定ノ第五十七條ニ從ヒ作タル元老院決
 定ノ議案ヲ檢シ右議案ニ付テ政府ノ發議人ノ論辨ヲ聽入レ且當月廿
 六日ニ已ノ議員ノ内委任シタル委員ノ届書ヲ檢シ右千八百二年元老
 院建國決定ノ第五十六條ニ定タル投票ノ數ヲ以テ其議案ヲ決議セシ
 後各條ヤヲ決定ス

○佛蘭西一千八百
 十五年

天主ノ恩并ニ建國法ニヨリ佛蘭西國民ノ皇帝タル那破崙現今及將來
 ノ人民ニ頓首ス

朕十五年以前佛蘭西國民ノ志望ニヨリ國ノ政治ヲ執リシ時ハ國民ノ必要及所望ヲ窺ヒ經驗ニ乘シ時々建國ノ体裁ヲ改正スル爲メ盡力セリ即チ所謂帝國ノ建國法ハ時ヲ得テ追々作立シ國民ノ承諾ヲ受タル種々ノ公書ヲ以テ編制ス○其節朕ハ當代ノ人意ニ適シ且文明開化ノ進歩ヲ助ク可キ者トシテ歐洲列國ノ大政道ヲ設ク可キコノ主意ヲ抱キ又之ヲ全備シ廣大ニシ萬代不易ノ基礎ニ立テ置ント思惟スル間ニ國君自由ノ權利ヲ定シムルニ要スル處ノ國內諸制度ノ編成ヲ延引セシカ今ハ朕國民自由ノ權利ヲ確定シテ以テ國ノ隆盛ヲ増加スルコトノ外主意ナシ然レ之ヲ爲スニ帝國ノ建國法元老院ノ建國決定書及國ノ立政ニ管スル他ノ法ニ大切ナル改正ヲ加ヘサルヲ得ス因テ一方ハ古來ノ制度ノ中用ニ立ツ可キ分ヲ守リ一方ハ帝國ノ建國法人民ノ必要

國法人民ノ必要及心望ニ應シ以後朕歐國ヲ繼守セントスル平和ノ交際ニモ適スル様要スル處ノ改正ヲ此建國法ニ加ヘントス因テ右建國法ヲ修正シ國民ノ權利ヲ保證シ國民代理ノ政治ト云政治ノ方法ヲ成可ク丈々廣大ニシテ皇帝ト國民間ノ諸官ニ其要スル所ノ尊敬及威權ヲ與ヘ抑一方ハ國民ノ自由及國民ノ保身ノ權限ヲ弘メ一方ハ他國ヲシテ佛蘭西國ノ獨立ヲ守ラシメ朕ノ冠ヲ恭敬セシム可キ様要スル所ノ本政合歸ノ權力ヲ立ツ可キ爲メ改政ノ條則ニ付テ追々國民ノ承諾ヲ請ントス即チ建國法ノ副書トシテ各條々ハ公然ニ全國中ニ之ヲ布告シ國民ノ隨意ノ承諾ニ之ヲ進告ス可シ

第一條 帝國ノ諸建國書殊ニ千七百九十九年十二月十三日附ノ建國法ト千八百二年八月二日及四日又千八百四年五月十八日附ノ元老

院建國決定書等ハ各條ニ從テ之ヲ改正ス然レ各條ニ管セザル同法
同決定書ノ他ノ條ハ之ヲ續テ用フ可キ者トシテ此ニ確定ス

○佛蘭西一千八百三十年

佛蘭西國民ノ王タルルイ、ヒリヅ當今并ニ將來ノ人民ニ頓首シテ左ノ
事ヲ告スルナリ○千八百十四年附ノ建國法ハ當年八月七日ニ上院下
院ヨリ之ヲ改正シ且同八月九日朕ヨリ之ヲ承諾シタル儘ニ各文面ヲ
用ヒテ更ニ之ヲ公告ス可シ

第六十八條 凡ル、區第十世在位間ニ新ニ設タル處ノ議官ノ位并ニ
右爲シタル處ノ一ルノ委任ハ皆効シナカル可キ者ニシテ之ヲ廢
ス○尙建國法ノ第二十三條ハ千八百三十一年ノ會席中更ニ之ヲ評

議ス可シ

第六十九條 左ノ件々ハ追々格別ナル法律ヲ設ケ以テ勤テ速カニ之
ヲ定ム可シ

第一 版告ニ付テノ輕罪裁判并ニ政事上ニ付テノ輕罪裁判ニ陪審
ヲ該用スル事

第二 諸卿并ニ他ノ官員ノ責任ノ事

第三 代議者如シ給金ヲ受ク可キ所ノ公役ヲ任シタル時ハ其代ト
シテ他人ヲ選任ス可キ事

第四 徵兵ノ總數ヲ年々下院ニ決議セシム可キ事

第五 報國兵ノ編成方法但右兵卒自ラ其士官ノ選舉ニ參加ス可キ事

第六 海陸軍士官ノ分限ヲ保存スル爲ノ法則ノ事

第七 州邑ニ於テ人民ノ任選ニ依ル可キ處ノ制度ノ事

第八 公學ノ設立方法并ニ教授ノ所業ヲ自由ニスル事

第九 代議者任選ニ付キ二段ノ等級ヲ廢スルコト又人民ノ選立人并

ニ代議者トナルヲ得ルニ適ス可キ件々ヲ決定スル事

第七十條 斯ク改正シタル建國法ノ條々ニ背ク規則ヲ定ル所ノ現今

ノ法律并ニ布告ハ其肯キタルコトニ付テ以後之ヲ廢シタル者ニシテ

効ナカル可シ

○佛蘭西 一千八百四十八年

第三十二條 若シ議院ハ建國法ヲ改正スヘキハ代議者ノ數ヲ九百人迄増如ス可シ

第一百八條 勳社レヨソトシムハ從前ノ如ク修存スルト雖モ其結社ノ定則ヲ改正シ

建國法ニ適當セシムル様爲ス可シ

第一百十一條 民選議院若シ其會議スヘキ所ノ時間ノ終リシ年中建國

法ノ全部或ハ一部ヲ改正セシメントノ望ヲ發シタル時ハ左ノ如ク

其改正ヲ爲ス可シ

一 凡右望ム所ヲ決議セサル前一ヶ月間ヲ隔ツ可キ處ノ三箇ノ

決議ヲ爲シ其各決議ノ投票ノ四分ノ三ニヨリ之ヲ爲サマルヲ得

ス又各決議ノ投票ヲ出ス人ノ數五百人以上ノ數アル可シ

一 建國法改正議院ヲ一ヶ所設ケ三ヶ月限リ勤ム可シ○右改正議

院ハ其己レニ任シタル建國法改正事務ノミヲ勤ム可シ然モ急速

ナル場合ニ於テ立法ノ必要ナル事務ニ供スルヲ得可シ

○佛蘭西 一千八百五十二年

○憲法ヲ制定スル原由千八百五十二年一月十四日布告佛蘭西共和政治ノ大統領路易拿破崙ノ佛蘭西人民ニ告諭ノ書

去歲十二月二日ノ布令書ニ佛蘭西國ノ政體ヲ創建スル爲メ緊要ノ基礎ハ何物タルヲ余カ嘗テ思念セシ所ニ就キ以テ誠實ニ汝衆庶ニ告諭セリ而シテ余カ當時ニ在テ思念セシ所ハ世人ノ常ニ稱道スル如ク敢テ一己ノ私説ヲ以テ數百年間實際ノ試験ヲ經タル定論ニ換用セント欲スルニ非ラス唯往時ニ在テ當今ノ軌範ト爲ス可キハ何物ニシテ其軌範ハ又何人ノ之ヲ今ニ遺シ且何等ノ裨益ヲ生セシヤ此等ノ數事ヲ講求セシト欲セシニ在リ故ニ爾來余ハ世人ノ實踐ニ関セサル節觀裝聽ノ論說ヨリ寧ロ俊傑ノ士躬行ノ跡ニ就キ其精英ヲ採擇シテ時ニ施ス

ノ道理ニ合スルヲ思ヒ此ニ於テ千八百年代ノ初メ其形勢ノ恰モ現今ト相似タル危殆ノ佛蘭西國ヲシテ康寧ノ景福ヲ亨ケ隆盛ノ極治ニ至ラシメタル其政體ヲ以テ軌範ト爲ス可キヲ決セ以テ而シテ顧ミルニ又其政體タルヤ往時特ニ歐洲諸國ノ全力ヲ合シ我佛蘭西國ニ抵敵シテ纒カニ廢滅ニ至ラシメ人民劇發ノ變ニ因リ頓ニ崩潰ニ至リシ者ニ非サレハ是レ亦余カ以テ軌範ト爲ス所ナリ因テ此ニ余カ大趣旨ト爲ス其要ヲ概言スルニ凡ソ我佛蘭西國ハ政法ノ施設、兵旅ノ簡閱ヨリ審判法、教經濟等ニ至ル迄要スルニ皆嘗テコンシユル政治及ヒ皇帝政治ノ際創定シタル條規即チ拿破崙一世帝ノ創定シタル者ヲ云フヲ遵用シ今ニ於テ既ニ五十年ニ及ヘハ豈其政體ニ於テ獨リ之ヲ遵用セサルノ理アラシヤ況ヤ其政體ハ夫ノ政法、兵旅、審判、法、教、經濟等ノ條規ト同シク亦嘗テ拿破崙帝ノ慮

シテ又我國最良ノ經濟法、國立銀鋪ノ設立、政府ノ歲出歲入ノ積書政府
 出額入額ノ検査院及ヒ警察ノ制度、兵制ノ規律等モ亦皆拿破崙帝ノ時
 創定セシ所ニ循ヒ就中我國五十年來人民交誼ノ條則ヲ定メシハ即チ
 拿破崙帝ノ創制シタル民法ニ在リ又我政府ト僧徒ノ交際ヲ定メタル
 ハ嘗テ拿破崙帝ノ羅馬教皇ト結ヒシ條約書ニ因リ其他製造、貿易、學術、
 技藝ノ進歩ニ管スル法令モ其テアトルフランセル演劇アリ、ドントン製造
 所ノ財主ト工丁ト爭フ等ノ規則ニ於ケル細故ヨリ大學社及ヒロシヲ
 生スル時裁斷ヲ爲ス者等ノ規則ニ於ケル細故ヨリ大學社及ヒロシヲ
 ンドノレ武ヲ論セス國ニ大勳勞等ノ大事ニ至ル迄亦其過半ハ拿
 破崙帝ノ命ニ因リ制定セシ所タリ故ニ今試ニ我佛蘭西國ノ法律制度
 ヲ統合シ以テ之ヲ厦屋ニ喩フルニ凡百ノ工人ヲ督理シテ此厦屋ヲ建
 造シタル其匠頭ハ即チ拿破崙帝ニシテ既ニ其廢黜ニ遇ヒ帝位ヲ限キ

シ以來相繼テ三次ノ大變革ヲ經ルト雖モ嘗テ其建造シタル厦屋ニ於
 テハ毫モ損壞セス依然トシテ猶全存シ拿破崙帝ノ裁定シタル諸般ノ
 制度今ニ相承ケ遵用スル既ニ如此ナレハ意フニ其建設シタル政體ノ
 大憲モ亦之ヲ循行セサルノ理ナキト特ニ明カナリ是以テ余嘗テ數年
 以來沈潛反覆此等ノ事ヲ思念シ既ニ心ニ決セシ故ニ更ニ夫ノ共和政
 治立國第八年ノ憲法即チ拿破崙一世ニ原キ新タニ憲法ノ要領ヲ編成
 シ以テ汝衆庶ニ告示シテ其可否ヲ汝衆庶ノ聽斷ニ任セント欲ス故ニ
 今余カ告示スル所汝衆庶ノ相與ニ許可スルヲ得ハ直ニ以テ我佛蘭西
 國憲法ノ基礎ト爲ス可キニ因リ次ニ揭示スルニ其趣旨ヲ以テ區夫レ
 我此佛蘭西國ハ八百年來立君ノ政治ニシテ政府ノ權勢日ヲ逐ヒ增加
 セシカ故ニ竟ニ王權ヲ以テ諸ノ侯伯ヲ廢滅シ政府ノ權ヲ一定シテ速

カニ施行スルノ阻礙タル可キ事故ハ既ニ數次ノ大變革ニ因テ盡ク除去スルヲ得ルニ至リ而シテ其權ノ政府ニ歸スル國ニ於テハ常ニ衆庶ノ論ヲ以テ國家ノ利害得失之ヲ政府ノ長ニ歸ス故ニ其長タル者ハ國家衆務ノ責舉テ之ヲ其一身ニ任セサル可カラス然ルニ若シ憲法ノ首文ニ於テ其身敢テ其責ヲ負荷スル主者ニ非ザルヲ記シ以テ衆議ノ是非ヲ遁レント欲セハ是レ轉々詐僞ヲ修節シテ夫ノ三次ノ大變革ニ因リ既ニ廢滅ニ至リシ僞法ヲ更ニ舉ケ行ハント爲ス者ト謂可シ故ニ今余カ此ニ制定セント爲ス憲法ハ汝衆庶ノ撰擇セシ政府ノ長汝衆庶ニ對シテ其長ニ信從倚賴スルノ意ヲ操捨存廢各其自由ニ任セシメ敢テ強サルニ在リ余故ニ謂ラク凡ソ今此政府ノ長ハ國家ノ衆務舉テ之ヲ一

身ニ集メ以テ自カラ其責ニ任スレハ要スルニ施爲其自由ヲ得テ妨礙ノ處ナキヲ慮セサル可カラス故ニ大ニ其長ノ意ヲ啓沃シ以テ相左右スルニ足ル貴重ノ宰相ヲ置テ其保護ニ依ルヲ緊要トス然レ之ヲ往時ニ考フレハ其宰相タル者相與ニ聯結シ專ラ庶政ノ責ニ任シテ常ニ政府ノ長ノ意ト議院ノ施設ヲ阻撓シ其勢相容サルカ故ニ宰相ノ除授日ニ相尋キ政府建設ノ諸務之ヲ繼行スル能ハサルノ弊アリト雖レ今余カ任用セントスル宰相ハ各其職ヲ分チ交互連帶以テ其責ニ任セシメサレハ敢テ此弊ヲ生スルノ虞ナク共ニ治化ヲ變理スルニ足ル可シ然レ人ノ位階其貴重ヲ極メ施爲其自由ヲ得テ民庶ノ依賴特ニ大ナル時ハ顧ミルニ又常ニ道理ヲ討論シ可否ヲ獻納スル輔翼ノ職數員ヲ置キ以テ相咨詢ス可キニ在リ因テ更ニ參議ノ官ヲ設ケ政府ノ眞正ナル輔

翼ノ員ニ充テ余カ制定スル政憲ノ主機ト爲スヲ欲シ而シ且其員ニ充ル者ハ皆世故ニ諳練スル精妙ノ撰ヲ用ヒ之ヲ各異ノ委員ニ派シテ互ニ法律ノ議案ヲ草セシメ更ニ其草案ヲ集議シテ辨論ヲ修飾セズ衆庶ノ與聽ヲ禁シテ仔細ニ相酌議セシメ然ル後之ヲ議院ニ附シテ其許可ヲ得セシムルニ在レハ思フニ政府ノ施爲常ニ其自由ニ任シ施行スル所道理ニ悖ルノ憂ナキヲ得可シ故ニ此兩職ハ特ニ余ノ依頼スル所ト雖モ議院ノ國家ニ於ケル顧ミルニ又緊要ノ設ケタレハ之ニ附スルニ行政官ヲ監督スル權ヲ以テシ而シ今其制ヲ舉クルニ蓋シ議院ノ代理者ハ其可否ヲ述フル多寡ニ從ヒ以テ法律及ヒ租稅ヲ議定セシメ且其員ヲ選舉スル制ハ必ス國內人民ノ投票ヲ用ヒ一人毎ニ之ヲ選舉セシメ數人ヲ合セ選舉セシムルヲ聽サ、ル者是レ其受選者平生ノ器識才

望之ヲ知ルノ容易ナルニ在テ又其代理者ノ數ヲ限定シ凡ソ二百六十員ニ過キシメサル者要スルニ事ヲ議スルハ其靜肅ナルヲ欲シ若シ其員ノ多キニ過クル徒ラニ喧囂ノ害ヲ生シ忿爭ニ至リ易キノ弊ヲ防クニ在リ而シ又此議院商議ノ旨趣ヲ普ク民庶ニ聞知セシムル其摘撮書ハ唯其議長ノ管照ヲ受ケ以テ記ス可キ官鑄新聞紙ニ之ヲ載スルヲ許スト雖モ往時ノ外ク偏頗ノ心ニ任セ互ニ異論ヲ立ル各自ノ新聞紙上ニ印刷スルハ之ヲ禁ス可シ又此議院ハ自由ニ法律ノ議案ヲ商議シ其可ト爲ス者之ヲ採用シ不可ト爲ス者之ヲ拒止スルヲ得可シト雖モ從來政府施行ノ制度ハ頓ニ更改ヲ事トシテ之ヲ紊亂シ政府ノ處置ヲ妨害ス可カラズ殊ニ此議院ニ附スルニ法律議案ノ起草ヲ爲スヲ禁セントスルモノハ蓋シ之ヲ議院ニ委シ以テ其意見ニ任スル時ハ或ハ員中

ノ一代理者未タ其講究セサル諸般ノ事由ヲ建議シテ自カラ政府ノ權ニ代ラントスル大弊害ノ生ス可キニ因レリ而シテ又此議院ノ員ハ敢テ往時ノ如ク宰相ト相對シ以テ法律ノ議定ヲ爲サシメス且其議案ハ參議ノ員ヲシテ自カラ議院ニ至リ之ヲ酌議メ互ニ其利害ヲ論シ是非ヲ辨セシムルカ故ニ徒ラニ模糊タル事端ヲ固執ノ難詰謗罵交々異見ヲ持シ到底此宰相ヲ黜ケ彼宰相ニ易フル目的ニ因リ執爭辨駁以テ空ク時間ヲ費スニ至ル害ヲ除去ス可シ故ニ今此議院ノ商議ハ之ヲ闔院ノ獨議ニ附シ敢テ他ノ抑制ヲ受ケシメス以テ無益ノ爭端ヲ開ク原由ヲ除去スレハ其議案ヲ更改スル叮嚀反覆徐ニ之ヲ裁酌シテ失當ノ虞ナキヲ得可ク而シテ斯ク此議院ヲシテ其自由ニ任スルヲ得セシムル者蓋シ議院ノ代理者ハ我佛蘭西全國ノ民庶ニ代リ以テ國政ヲ議スル員タ

ルカ故ニ重大ノ事務ハ必ス熟慮シテ之ヲ行フヲ要スルニ在ルナリ夫レ議院ノ設ケ既ニ如此ト雖モ顧ミルニ又一ノ會議ヲ設ケ我佛蘭西國中富有材能勳功ノ德望至當ナル者ヲ撰ミ之ヲ元老ノ職ニ任シ其員ニ充ツ可キカ故ニ今此ニ其要ヲ舉ルニ凡ソ元老ハ往時ニ於ケル上議院ノ懼色戰栗以テ下議院ノ商議ヲ聽キ常ニ其議定ノ說ニ和同シテ屏息與議セシカ如クナラシメス蓋シ其職ハ憲法ヲ保護シテ其法ト並行ス可キ國民自主ノ權ヲ管掌セシメ而シテ此大憲ニ據テ諸般ノ法律ヲ照查シ且新法ヲ創定シテ之ヲ行政官ニ附シ又議院會集ノ期外ニ生スル重大ノ難事ヲ理治シテ憲法ノ文義ヲ釋明シ又其法ヲ行フニ緊要ノ諸事ヲ整備シテ其法ニ背反セシ命令ヲ廢止スル各般ノ權ヲ有セシメ以テ國家ノ大益ヲ稽察シ法律ノ主腦タル條件ヲ施行スル貴重ノ任ニ置キ

而メ往時裁判所ノ行フタル獨立不羈ニシテ國ヲ裨益シ法ヲ保護スル
 カ如キ諸務ヲ管理セシメント欲區然_レ此元老ハ敢テ往時ノ上議院
 ニ於ケルカ如ク之ニ任スルニ審判ノ職ヲ以テセス最第一勸解者ノ分
 ヲ有セシメ以テ居間ノ任ニ置ク者蓋シ若シ此官ヲ以テ罪犯檢治ノ裁
 判所ト爲ス時ハ意フニ必ス衆忌ヲ來シ私意ヲ恣ニスル嫌ヲ受ケ人民
 欽仰ノ意ヲ失フテ怨怒ヲ政府ニ傳フルノ資具タル譏ヲ招カシムルニ
 因レリ而メ元老會議ノ設ケ既ニ如此ト雖_レ顧ミルニ又大審院ヲ置キ
 以テ政府ノ長ト國ノ安寧トニ對スル罪犯ヲ審判セシム可キノ要タル
 カ故ニ更ニ上等裁判官吏ノ中ニ就キ以テ撰擢セシ者ヲ其員ニ充テ且
 佛蘭西全國中各州會議ノ代理者ヲ擇テ其陪審ト爲スヲ欲區_レ凡ソ上ニ
 陳スル所ハ蓋シ憲法ノ大旨ニシテ其詳カナルハ更ニ裁定ス可シト雖

氏嘗テ拿破崙帝ノ參議官ニ告諭セシ其言ニ曰ク夫レ憲法ハ時ニ應シ
 勢ヲ視テ漸ニ裁酌ス可キニ在レハ宜シク後者ヲシテ其改正ヲ得セシ
 ムル便地ヲ餘シ以テ寬ニ之カ制ヲ定ムヘシト故ニ今余カ制定セント
 スル此憲法モ亦唯其分明ヲ欠ク可カラサル條件ノミヲ揭ケ敢テ我盛
 大ナル佛蘭西國民ノ運命ヲ羈勒限定セサル者是レ佛國若シ大患ノ生
 スルアラハ後人ヲシテ從來制定ノ法ヲ更改シ以テ國家ヲ安スル新法
 ヲ建テシム可キカ爲メナ_レ是以テ元老ハ政府ト共議シ以テ憲法ノ中
 特ニ其重大ナラサル條件ハ之ヲ更改スルヲ得可シト雖_レ今汝衆庶ト
 相議シ以テ決定セントスル此憲法ノ大基礎ヲ更ニ更改セント欲スル
 時ハ復タ汝衆庶ノ許可ヲ得ルニ非サレハ敢テ更改ス可カラス故ニ我
 カ佛蘭西ノ人民ハ常ニ其運命ヲ己レノ志願ニ從ヒ以テ自カラ定ムル

ヲ得可シ而ソ凡ソ憲法ノ基礎タル重大ノ事體ハ苟モ人民ノ意志如何
ヲ問ハス以テ之ヲ制定ス可カラズ夫レ此等ノ趣旨ハ汝衆庶ノ既ニ余
カ之ヲ實際ニ施行スルヲ許セシ所タルカ故ニ余カ嘗テ希望スル如ク
此憲法ニ因テ我佛蘭西國ニ靜謐隆盛ノ福ヲ與ヘ禍亂ヲ釀シ凶害ヲ生
スル原因ヲ塞キ且汝衆庶ノ相共ニ余カ心ヲ竭シ治ヲ圖ルノ意ヲ容受
シ以テ永ク上天ノ惠ヲ享クルヲ得ハ内外共ニ寧靜ニシテ余カ志ヲ達
シ余カ職ニ於テモ亦成就ス可シ

○佛蘭西 一千八百五十二年

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更正スル千八
百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書
第十七條 千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ第二條第九條第十一

條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十二條第三十
七條ハ之ヲ廢ス

○佛蘭西 一千八百六十六年

○憲法及ヒ殊ニ其第四十條第四十一條ヲ更改シタル千八百六十六
年七月十八日及ヒ二十二日ノ元老院決定書

第一條 憲法ハ元老院ニ於テ裁定シタル法式ヲ以テ討論ヲ爲スノ外
他ノ官局ニ於テ之ヲ討論ス可カラズ
憲法ヲ更改シ又ハ釋明スル事ヲ目的ト爲タル願書ハ元老ノ五局中
ノ三局以上ニ於テ其願書ヲ取調フ可キノ允許ヲ爲タル時ニ非レハ
元老院ノ大會議ニ差出ス可カラズ

○英吉利

卷一 英皇帝ヨシノ大條約書マダナカータ
 マン家第十世ノ君ニテ千百九十九年帝兄リッチヤルドノ早世ニ因
 リ帝位ヲ繼ク帝暗弱ニシテ無道ナリ外征ヲ好ミ屢外侮ヲ來ス國用
 不資諸侯人民大ニ苦ム終ニ諸侯合從シ帝ニ迫テ姦臣ヲ退ケ政府ノ
 弊害ヲ改正セント乞フ帝奔テ龍動ノ西二十里ヲ子ミドト云所ニ
 至ル左右從フ者僅ニ數人ニ過キス帝撫然トシテ涙下ル諸侯ノ勢益
 熾ナリ帝始テ國民ノ皆離ル、ヲ知ル如何トモスルコナシ是ニ於テ
 大ニ諸侯人民ト誓テ國憲六十餘條ヲ定ム之ヲ大條約書ト云以下略
約書云帝在位十七年殂千二百十六年也○此大條約書ハ大半ヘヌリ一
 世ノ時ヲクソシ人民ニ約セシ國憲ニテ則テクソシ王コドワド三世

ノ國憲ニ復スト云蓋シ英人之ヲ以テ今日國憲ノ基礎トシ仰キ尊フ
 一實ニ經典ノ如シ故ニ凡洋書及其翻譯書ヲ讀ム者ハ皆其名ヲ知ラ
 サル無シ然レ其文ハ皆古キ羅天語ナレハ初學ノ生徒多ハ未タ其全
 文ヲ讀マス余嘗テ英國ノヲックスフォードニ在シ時幸ニ其原文ヲ
 得佳師ニ就テ之ヲ解釋スルコトヲ得タリ今之ヲ和文ニ譯ス
 卷二 帝ヨシノ殂太子ヘヌリ立之ヲヘヌリ三世トスヘヌリ立亦
 暗弱ニシテ兵亂不逞數先帝ヨシノ大條約書ヲ破ル侯伯士民數帝
 ニ抵抗シ以テ更ニ大條約書ヲ維持センコトヲ約ス之ヲ稱シテ堅固大條
 書ト云大條約書ニ掲載スル所ノ條約ヲ益堅固ニスルヲ謂フ凡ヘヌリ
 三世ノ時大條約書ヲ破リ復之ヲ堅固ニスルノ約ヲナス者前後六回
 ヘヌリ三世千二百七十一年殂在位五十六年○帝コドワド一世ハ

ヘヌリル三世ノ太子ニシテ父殂シ其位ヲ繼ク帝懿達ニシテ頗ル豪邁ノ風アリ然レ功名ヲ貪リ數々外征ヲ事トス國用不資數々大略書ヲ破リ賦稅ヲ重クス侯伯人民之ヲ苦ム終ニ帝外征ノ隙ニ乘シベヤルフハ一ドア一ル侯及リフヲ臣侯ノ兩人主トシテ義ヲ唱ヘ大ニ諸侯人民ヲ合從シウエストミニストルノ政事堂ニ會シ太子ヨドワドニ因テ盟約ヲ立テ以テ大略書ヲ維持スルノ盟書ヲ作り使ヲ遣シ帝ニ之ヲ要ス帝如何トモスルヲナシ則之ヲ准允ス之ヲ堅固約書ト云蓋シヨヨレノ大略書以來國憲緊要ノ定書トス于時千二百九十七年卷五 弭ヤール区二世殂ス在位三十六年內十一年ハ逆臣其政權ヲ擅ニス○弭一ム区二世佛蘭西ニ奔リ帝位ヲ退ク在位四年時ニ弭一ム区二世大ニ無道人民不服弭ヤール区一世ノ外孫荷蘭ノヨレン王

ヨ非リヤハ大兵ヲ率ヒテ英國ニ入ル侯伯人民ヨレン王ニ心ヲ歸スル者多シ弭一ム区二世其支ル能ハサルヲ知り佛蘭西ニ奔ル侯伯人民相共ニヨレン王并其妃ヲレ止^セムスニ^ニヲ迎テ英ノ國帝ト爲シ首ニ國憲ヲ維持センヲ約ス之ヲ自由權利ノ定書ト云

○獨逸

第七十八條 立法通常ノ方法ヲ以テ此國憲ノ改正ヲ爲スヲ得ヘシ然レ上院ニ於テ十四ノ投言ハ^{第六條}參看 其改正ノ事ヲ拒ムキハ改正ヲ爲スヲ得ヘカラス○聯盟各邦ノ一國ト帝國トノ關係ヨリ生スル權利ニ付テ帝國國憲ノ種ヤノ規則ハ其各邦ノ承認ヲ得スシテ改正スヘカラス

○普魯西

第七條

建國法ハ議院ノ通法ニ循ヒ修正スルヲ得之ヲ修正スル

改スルヲ得ス然ニ修正モ亦必ス再次公評ヲ要ス但它ノ繁雜ヲ容
レス故ニ通法ニ循フト云○佛國ノ若キ那破命三世ノ時元老ノ決定
ヲ修正スルヲ得ス ○各院必ス全勝ヲ要ス可トスル者全
再議ニ至ル者ハ全勝ヲ得ス故少クモ二十一日ノ空間アルヲ要ス建
法ヲ修正スルハ尤モ慎重ヲ加フ

第一百八條

若シ日耳曼同盟ニ因リ千八百四十九年五月二十六日定

タル憲法ノ爲ニ此建國法ノ改正ヲ要スルト已ムヲ得サルニ出ル時
ハ國王之ヲ命スベシ而シテ次會ニ於テ其旨ヲ兩院ニ通照スベシ日
曼同盟ノ憲法ト此建國法ト相
關レ改正ヲ要スルヲ致ス ○兩院ハ假ニ命シタル改正ノ果シテ

日耳曼同盟建國法ト諧合スルヲ決スベシ

○澳地利

第三篇第三十七條

千八百六十一年二月二十六日ノ帝國議會ノ憲法

ヲ修正シタル此憲法ハ國民ノ通權ニ關スル憲法第一 太政權並ニ行
政權第四 司法權第五 及帝國法院第六ノ設置ニ關スル憲法ト同ク即
時ニ施行スベシ

○米利堅

合衆國ノ人民等國中ヲシテ益共和一定セシメ公明正大ノ法律ヲ立テ
國內ノ治平ヲ保チ外寇ニ備ヘ衆庶益安寧ナラシメ自主ノ幸ヲ我ヤノ

子孫ニ固フセンコトヲ欲シテ此憲法ヲ亞米利加合衆國ノ爲ニ設立スルモノナリ

第五條第一節一 兩院三分ノ二望ムモノアレハ常ニ此憲法ヲ補正スルノ議ヲ發ス可シ又各州議政官三分ノ二之ヲ望マハ其補正ヲ計ル爲メ集會ヲ起ス可シ而メ議院ヨリ發スル所ノ議定ノ法ニ從ヒ各州議政官ノ議四分ノ三或ハ集會ノ時四分ノ三協合セハ此憲法ト共ニ立テ以テ合衆國ノ法ト爲ス可シ但一千八百年迄ハ第一條九節ノ第一及第四條ニ關係スルコトヲ改革ス可カラス又其州之ヲ肯セサレハ何レノ州タリモ上院ニ等シク議員ヲ出スノ權ヲ奪フベカラス

第七條第一節 此會議ヲ定ムルニ九州ノ議合ハサレハ此憲法ヲ立テ

合衆國ノ大法ト爲ス可カラス

○白耳義

第三百一十一條 立法權ハ建國法中某條ノ修正ヲ要スルコトヲ宣告スルノ權ヲ有ス國王及上下院ヲ立法權トス○此宣告ノ後兩院即チ解散ス其令アルヲ待タス○第七十一條ニ循ヒ兩院ノ新員ヲ徵聚スヘシ○新徵ノ兩院ハ國王ト通同シテ修正ノ條件ヲ議ス○此時ニ各院少クモ其議員三分ノ二出頭セザルモハ議事スルコトヲ得ス而シテ少クモ投票三分ノ二ヲ合セサル時ハ變改ヲ許スコトヲ得ス之ヲ慎重ス故ニ議事特例ヲ用フ

○瑞典

第八十一款 現今行フ所ノ政体及其他王國ノ憲法ハ須ラク國王ト議院兩局ト協議ノ上ニテ之ヲ改正廢止スルヲ要ス○憲法ニ就テ國王其意見ヲ述ヘ之ヲ議院ニ於テ評議スルコアルキハ右決議ノ趣ヲ國王ニ奏聞ス可シ其手續ハ各代人撰擧ノ法律中ニ掲載スルカ如シ○議院ノ決議ニ依テ憲法ノ案件ヲ出シ之ヲ允准スルキハ右決議ノ趣ヲ國王ニ奏聞シ國王ハ議院ノ未タ閉局セサル前ニ内閣大臣總体ヲ召集シテ此事ヲ評議シ其意見ヲ聞タル上ニテ改廳ニ出御シテ議院ヲ召シ之ヲ許可セル旨ヲ告知シ若シ然ラサルキハ其許可シ難キ道理ヲ説明スヘシ

第八十二款 現今定ル所ノ手續ニ照シテ議院ニ於テ憲法ヲ改正スルコニ決定シ其上ニテ國王之ヲ許可シ或ハ元ト國王ヨリ發言シ其上

議院ニ於テ允准スル所ノ案件ハ惣テ國中ノ憲法トシテ之ヲ施行ス可シ

第八十三款 將來憲法ヲ解釋スルニハ當時ノ手續ヲ以テ之ヲ改正シタル解義ヲ以テ證據ト爲シ其余ハ効用ナキモノトスヘシ

第八十四款 格段ノ案件出來スルキニハ憲法ノ字義ヲ援キテ決斷ス可シ

第八十五款 憲法ハ現今ノ政体各代人撰擧王位相續及著書自由ノ法律ニシテ國王ト議院ト協議和同ノ上ニテ當時ノ政体ニ載スル所ノ條理ニ基キ決定設立セシ者ト看做スヘシ

○西班牙

附錄第一條 千八百四十五年五月二十日 二十三日ノ誤ナランニ公布シタル西

班牙國憲ヲ復興ス

第二條 國會ノ朕ト共ニ須要ナル例規ヲ定ルニ至ルマテハ左ニ掲ル
増補律例ニ依リ國憲ヲ修正ス可シ但該増補律例ハ此王勅ヲ公布シ
タル日ヨリ該國憲ノ部ニ列スル者トナシテ之ヲ遵守執行ス可シ

千八百五十六年九月十五日王宮ニ於テ決定ス

女王手カラ署名ス イザベル

執政會議長

レオポール、オドリル

○瑞士

第百十一條 聯邦國憲ハ何時ニテモ查正スルヲ得

第百十二條 國憲ノ查正ハ聯邦ノ法律ニ因リテ定タル法式ニ從フ

第百十三條 聯邦議會ノ一局ハ聯邦國憲ノ查正ヲ主張スレモ他ノ一
局之ニ同意セサル時若クハ投票ノ權ヲ有スル瑞士國民五萬人以上
國憲ノ查正ヲ請求シタル時ハ瑞士全國民ニ投票セシメテ以テ查正
ノ可否ヲ決ス可シ○右場合ニ於テ國民投票シテ查正ヲ可ト決スル
者多數ナル時ハ國議會及列邦議會ヲ更選シテ國憲查正ニ從事セシ
ム可シ

第百十四條 查正シタル聯邦國憲ハ投票ニ參スル瑞士國民ノ多數及
列邦ノ多數之ヲ許認スルニ及テ乃チ執行ス

○葡萄牙

葡萄牙及アルガルヴ王國國憲

葡萄牙及亞利牙爾威王兼巴西皇帝「ドナ」一世「ド」第一世千八百二十六年四月二十九日之ヲ宣布シ千八百五十二年七月五日増補律例ニ因リ修正ス原

討ニ云ク増補律例ノ各條ハ其相干渉スル建國法ノ各條下ニ分チ掲タ

リ而シテ増補律例ノ條款ニ由リ建國法ノ條款ヲ全廢スル者ハ直ニ建

國法ノ本文ニ増補律例ノ條款ノ成文ヲ代填ス若シ増補律例ノ獨

修正改竄ニ止マル者ハ建國法條款ノ原文

ヲ存置シテ増補律例ノ條款ヲ註記セリ

第三百二十九條 國會ハ會期ノ始ニ於テ王國建國法ヲ精密ニ遵守シタ

ルヤ否ヲ查檢シ及建國法ヲ遵守セシムル例規ヲ嚴命ス増補律例第

ク國會ノ各院ハ探檢委員ニ依リ其職權ニ關スル事件ヲ查檢スルノ

權ヲ有ス○建國法第三十六條第一項及第三百二十九條ヲ集成スルノ

如斯ノ

第四百十條 王國ノ建國法ヲ誓約シタル日ヨリ四年ノ後ニ建國法中

ノ條目ヲ修正スベキトヲ認ムルハ文書ヲ作テ之ヲ起議スベシ但

スベシ

該起議ハ代議士院ニ於テ稿ヲ起シ同院ノ總議員三分ノ一之ヲ主張

スベシ

第四百十一條 前條ノ起議ハ各展讀會毎ニ六日ヲ隔テ三回之ヲ讀了

スベシ而シテ第三展讀ノ後代議士院ハ法律制定ノ爲ニ定ル例ニ依

據シ該起議ヲ討論ニ附スルヲ得ヘキヤ否ヲ論決スヘシ

第四百十二條 起議ヲ討論ニ附シテ建國法ノ條目修正ヲ須要トスル

トヲ認ムルハ次ノ議員任期ニ於テ今起議シタル建國法ノ改竄若

クハ改正ノ特任ヲ授ルトヲ議員撰舉人ノ命令スヘキ法律ヲ作ルヘ

シ但該法律ハ通常ノ規程ニ準シ國王之ヲ制可公布スヘシ

第四百十三條 次ノ議員任期ノ第一會期ニ於テ起議ヲ決議ニ付スヘ

シ但建國法ノ改易若クハ増補ヲ許認スルハ建國法ニ改竄ヲ加ヘ

テ瑞正ニ之ヲ公布スヘシ

第四百十四條 大權ノ權域并ニ職掌ニ係リ及國民各個ノ權理ニ應當スル者ノ外ハ建國法トセス凡建國法ニ戻レル件ハ前數條ニ掲タル諸規式ヲ賤履セザルモ通常議員任期ニ因ツテ之ヲ取消スコトヲ得現任ノ議員直ニ自ラ非建國法ノ條款ヲ取消スノ權ヲ有スルナリ

○荷蘭

第九十六條 凡建國法修正ノ議按ハ其起議スル修正ノ箇條ヲ明書ス法律ハ其論決スル所ニ隨ヒ該議按ヲ討議スヘキヲ宣告ス次掲示セルガ如ク建國法ヲ修正スル時ハ現在ノ國會ハ散スベキニ依リ其前ニ此法律ヲ出スナリ

第九十七條 此法律ヲ公布スルノ後國會ノ兩院ハ解散ス○新ニ選

舉シタル兩院ハ此議按ヲ討議ス然レ少クモ投票三分ノ二ヲ集ルニ非レバ該法律ニ因リテ起議シタル建國法ノ修正ヲ許認スルヲ得ズ

第九十八條 攝政官政ヲ握ル時ニ際シテハ苟モ建國法若クハ繼嗣序次ノ變改ヲ議スルヲ得ズ

第九十九條 國王及國會ノ諧合決定シタル建國法ノ修正ハ端式ニ循ヒ公布シテ建國法ニ附添ス

○丁抹

第九十五條 此國憲ニ付キ將來増加ス可キ種々ノ改正艸按ハ議院ノ通常及格別ノ集會ニ於テ之ヲ爲トヲ得可シ○此國憲ノ新ナル係規

ニ付テノ州按ハ兩院ニ於テ之カ決定ヲナシ而シテ政府之ニ効力ヲ
與ヘント欲スル時ハ直ニ兩院ヲ解散シ更ニ下院及上院ノ爲ニ全國
ヨリ議員ヲ撰舉ス右撰舉セラレタル兩院ノ議員ハ通常及特別ナル
集會ニ於テ其州按ヲ更ニ決定シ國王ノ批可ヲ得ル時ハ其州按ハ法
律ノ力ヲ有ス

第十六 附錄

○佛蘭西一千七百九十五年

第三百七十二條 佛蘭西國ノ紀元ハ共和政事初立ノ日ヨリ即チ千七百九十二年九月二十二日ヨリ算スヘシ

○佛蘭西一千八百一十四年

第六十八條 民法及此建國法ニ反對セサル都テノ現今法律ハ他ノ法律ヲ以テ之ヲ變改スルマテハ續テ之ヲ行フヘシ

○佛蘭西一千八百三十年

第六十六條 此建國法并ニ之ニ確定シタル都テ權利ノ保存ハ報國兵

并ニ都テノ佛蘭西國民ニ之ヲ任スルナリ

第五十九條 民法及此建國法ニ反對セサル都テノ法律ハ他ノ法律ヲ以テ之ヲ變改スルマテ續テ之ヲ行フヘシ

○佛蘭西一千八百四十八年

第九條 アルゼリヤ亞弗利加ニ在テ佛蘭西屬國并ニ屬國ノ領地ハ佛蘭西ノ領地ニシテ追テ此建國法ヲ之ニ該用スル爲メ格段ノ法律ヲ發スルマテハ格別ノ法律ニ從フヘシ

第十二條 此建國法ニ抵觸セサル處ノ五法并ニ現在ノ法律規則等ノ條々ハ法律ニ從ヒ之ヲ改正スルマテハ續テ之ヲ行フヘシ

第十三條 現在ノ法律ニヨリ職役ヲ任シタル所ノ總テノ官員ハ其

ニ關スル編制事務章程ノ新法ヲ頒布スルマテハ續テ勤ヘシ

○佛蘭西一千八百五十一年

○千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西人民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケシ威權ヲ以テ制定シタル憲法

第十四條 宰相、元老院、議院、參議官ノ官員及ヒ海陸軍ノ士官、裁判役其他ノ官員ハ左ノ誓詞ヲ述フ可シ

余ハ憲法ヲ遵守シテ大統領ニ忠節ヲ盡スコトヲ誓フ

第五十六條 現今行ハル、所ノ諸般ノ法律及ヒ規則ノ憲法ニ違反セ

ザル箇條ハ日後特ニ之ヲ更改スルノ命アルニ至ル迄施行ス可シ

第五十八條 此憲法ハ之ヲ以テ制定シタル國ノ大局ヲ設置セシ日ヨリ施行ス可シ

十二月二日ヨリ此憲法ヲ施行スル日ニ至ル迄ノ時間ニ共和政治ノ
大統領ヨリ下シタル命令ハ皆之ヲ法律ノカアリトス

○佛蘭西一千八百五十二年

第九十三條 千八百五十二年三月二十二日附ノ布告ハ之ヲ廢ス

○憲法ヲ改正スル千八百五十二年十一月七日ノ元老院決定書○元
老院憲法第三十一條及第三十二條ニ循ヒ商議ヲ爲シテ左ノ條件
ヲ決定セリ

第七條 千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ箇條中ニテ此決定書ニ
背カサル條件ハ舊ニ依テ之ヲ施行シ其憲法ニ定メタル方法ト體裁
トニ非サレハ之ヲ更改ス可カラス

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八
百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第十六條 憲法第十四條ニ定メタル誓詞ハ左ノ如クナリトス

余ハ憲法ヲ遵守シ皇帝ニ忠節ヲ盡スコトヲ誓フ

○英吉利

卷一第六十一條 此ニ天神ヲ尊敬シ國體ヲ整理シ以テ國家ノ安穩ヲ
復セン爲メ已ニ上ニ掲ケル條々ヲ准允シ且之ヲ萬世不窮ニ傳ヘテ
確乎トシテ動カサランコトヲ欲ス故ニ之ヲ保守セン爲ニ其權利ヲ汝
有衆ニ許可准允スルコト左ノ如シ

一 此帝國ノ諸侯伯ノ内ヨリ二十五人ヲ撰擧シ之ヲシテ常ニ其勢

カヲ以テ太平ヲ維時シ朕カ今准許シタル自由ノ權利ヲ固有セシムヘシ若シ朕如クハ大審判官長或ハ諸臣或ハ縣官此條約ヲ破ル犯罪ヲ右二十五侯ノ内少クモ四人ノ前ニ訴出ル者アルモハ此四人直ニ朕ノ前ニ其愁訴ヲ露出シ直ニ之ヲ救助シ又改正セシムヲ請フヘシ而シテ若シ朕又大審判官長之ヲ聞キ夫ヨリ四十日間ニ此疾苦ヲ救助シ又改正セスハ此四人又之ヲ其同列二十五侯共ニ評議シ二十五侯一般人民ト共ニ協力百方勢威ヲ以テ朕ヲ壓制窘迫スヘシ或ハ城壁ニ據リ或ハ土地及家財ヲ褫奪抑留シ以テ其疾苦ヲ救除シ弊害ヲ改正セシムヲ脅要スヘシ但決シテ朕カ身體并ニ皇后皇子ノ身體ヲ汚辱スヘカラス而シテ朕若シ其疾苦弊害ヲ救除改正セハ諸侯人民忽チ朕ノ命令ニ從ヒ忠誠ナルコト舊ノ如

クナルヘシ

- 一 凡二十五侯此權利ヲ施行スルニ當リ其命令ニ從ヒ之ヲ助成セシムト欲スル者ハ預メ二十五侯ニ其誓詞ヲ爲ヘシ朕之ヲ禁セス
- 一 凡二十五侯ノ命令ニ從ヒ協力勢威ヲ以テ朕ヲ壓制脅要セシムヲ預メ二十五侯ニ誓言スルヲ好サル者アラハ朕之ニ勅シテ其誓言ヲ爲サシムヘシ

一 凡二十五侯ノ内病死或ハ他ノ事故ニヨリテ欠員アラハ其餘ノ侯伯評議ノ上他ノ侯伯ヲ撰擧シ其欠員ヲ補フヘシ

一 凡二十五侯悉ク集會シ又其内不參ノ者アリト雖モ此集會ニテ上ノ條件ヲシ施行スルニ當リ諸侯中異議區々ニシテ統一ナラサルモハ其可否ノ多寡ヲ定メ其多方ニ決シ之ヲ以テ號令ヲ布クモ

ハ二十五侯悉ク同意センモノト看做スヘシ

一 凡二十五侯ハ其勢力ノアラシリ限ヲ以テ上ニ掲ル條件ヲ固守
ノ誠實無二ナルコトヲ誓言スヘシ

一 凡ソ此ノ條約ハ將來ニ於テ一箇條ニテモ決シテ廢止スヘカラ
ス若シ萬一朕カ爲ニ之ヲ廢止スル者アリ其廢止ノ約ハ全ク虛
無ニ歸シ未タ嘗テ廢止セサル者ノ如クナルヘシ

第六十二條

凡怨讐惡行等忌諱ニ觸ル、者アリ此般ノ爭論ヨリ起

リシモノハ悉ク之ヲ寬免スヘシ加之朕在位十三年「四月ヨ」

リ以來平穩回復ノ日マテ凡ソ爭論中其事ニ付罪ヲ犯セシ者ハ悉ク
大赦ノ典ニ處スヘシ故ニ此證書ヲ汝等ニ分付ス

第六十三條

是ニ於テ朕確乎トシテ汝有衆ニ命ス英國ノ聖會ハ自由

ノ權利ヲ有シ朕カ族属人民ハ何事ニ限ラス何レノ處ヲ問ハス此條
約ニ掲ル所ノ准允并ニ自由ノ權利等悉ク之ヲ安堵ニ保守シ子孫萬
世ニ傳ヘテ更ニ疑ヒアルヘカラス○現在朕并ハ天下ノ諸侯伯ト共
ニ天神ニ誓テ此條約少シモ違背ナク誠實信義ヲ以テ堅ク相守ルヘ
シヨ子一ミ一ドノ牧畜場ニ於テ諸侯伯并ニ一般人民ノ面前ニ於テ
公然朕自ラ名ヲ鈴シテ以テ之ヲ付與ス○干時在位十七年六月十五
日

卷二 此約書ハ朕カ手書玉璽ヲ副ヲ之ヲ森林官州官及四方ノ有司全

國郡村ニ分付シ各地方ニ於テ之ヲ人民ハ頒布シ且告諭セシメテ曰

此約書ハ朕自ラ確定シテ長ク國憲ト爲ス凡審判官州官邑正及宰臣

等必此國憲ニ依據セサルヲ得ス故ニ人民ハ裁判所ニ於テ此國憲ヲ

主張スルヲ得ヘシ

第二條 凡審判官又宰臣此約書ノ箇條ニ背キ裁判ヲ爲ス并ハ忽チ之ヲ廢止シ其處斷ハ嘗テ効無キ者ト看做スヘシ

第三條 此約書ニ朕カ手書玉璽ヲ副ヘ全國ノ本寺并ニ一切ノ寺院ニ分附シ各所ニ之ヲ藏テ毎年二回人民參集ノ時之ヲ讀上ケシムヘシ

第四條 凡此約書ノ箇條ヲ破リ又破ント謀リ又之ニ抗抵スルノ語ヲ爲ス者等ハ大僧正僧正聖會放逐ノ罰法ヲ以テ其ヲ呪詛スヘシ○

此罰法ハ毎年二回公然鳴詛シ以テ之ヲ天下ニ公布スヘシ○若シ僧正此鳴詛ヲ爲サヌ又之ヲ爲ニ寛ナルキハ大僧正權力ヲ以テ其僧正ヲシテ其職分ヲ盡ス可前文ノ如クナラシムヘシ○聖會放逐ノ罰トハ宗旨ノ罰ニテ凡此罰ニ當ル者ハ耶蘇ノ縁絶ヘ未來ノ樂土ニ趣キ

道無キ者ト見做ス中古文學未開人民之ニ惑フ親友ト雖此罰ニ當ル者ト共ニ齒セス水火糧食ヲ給與セサルニ至ル故ニ人民之ヲ恐ル、ト眞ニ神ノ冥罰ヲ得タルカ如シ

卷五第二章 前條ニ云フ所ノ貴族僧俗及人民ノ各代人可エストミニストルニ會同シ評決スル可左ノ如シ

此ニ貴族人民ヲレンシ王妃兩殿下ニ此契約ヲ許諾アラントヲ請願ス

第三章 凡從來忠義至尊ノ誓詞ヲ爲スヘキ者ハ悉ク左ノ誓詞ヲ爲スヘシ而シテ古例忠義至尊ノ誓詞ハ悉ク之ヲ廢スヘシ

皇帝可并リヤム皇后可レ止兩陛下ニ對シ何某忠誠無二ノ義務ヲ盡サンコヲ誓ヒ之ヲ眞正ニ契約ス

冀クハ神ノ我ヲ監保アラシム

世上嘗テ云フ所ノ羅馬法王ノ權利ヲ以テ帝王ヲ聖會放逐シ又之ヲ廢立シ又其臣屬ヲシテ之ヲ弑セシムル等ノ宗旨ハ何某之ヲ邪宗異端トシシ憎惡厭忌シ誓テ之ト絶ツヘシ○我今誓言ス凡外國帝王又僧侶等ハ此帝國內ニ於テ宗旨裁判ノ權利及其餘ノ權利威光等決シテ有ルヘカラス

冀クハ神ノ我ヲ監保アラシム

第五章 是ニ於テ貴族僧俗并ニ人民已ニ巴里門ノ兩局タリ而シテ兩陛下之ヲ以テ其儘巴里門ノ會同ト爲シ以テ將來國宗國法及自由權利等ヲ維持センコトヲ圖ル

卷六 凡兩議院ニ於テ罪狀ヲ鳴告セラレタル大臣ハ帝王恩赦ノ特典

ニ與ルヲ得ス○以上八箇條ノ内終リノ二箇條ハ國憲ヲ維持スルニ最モ緊要ノ法トス○兩議院ニ於テ罪狀ヲ鳴告スルノ法トハ英國ニテ大臣或ハ不法惡行アリテ人民其幣害ヲ受ルコト甚シト雖モ尋常裁判所ニ於テ之ヲ罪スルノ法ナキモハ兩議院ニ於テ其罪ヲ議シ衆論ノ決スル所ヲ以テ王ニ奏陳ス王之ヲ罪セサルヲ得ス尤其罰ニ輕重アリ輕キ者ハ免職ニ止リ其次ハ家財沒收又海外謫流最モ重キ者ハ死刑ニ處セラル之ヲ英語ニテインピ―チメントト云英ノ國憲ニテハ最モ緊要ノ者トス如何トナレハ凡大臣タル者ハ其委任重キ故ニ或ハ陰ニ匪法ヲ以テ己ヲ利スルモ姦曲ヲ廻シ陽ニ之ヲ彌縫スルモハ佞令尋常裁判所ニ於テ之ヲ糾彈スト雖モ法ノ以テ之ニ中ツヘキ者ナシ然モ一般人民其害ヲ受ルコト最モ甚シ尋常竊盜強盜等ノ一時

數人ヲ損害スル如キ比ニアラス故ニ國憲ト謂フ者殊ニ大臣ノ横行ヲ預防スルヲ以テ第一トス英國己ニ此法ヲ得タリ宜哉各國ノ之ヲ稱譽スルヲ而シテ各國モ漸次此法ニ倣フト云

○獨逸

第十一篇追加 此十一篇ニ記載シタル種々ノ規則ハ、ハ、ビエー、ル、ニ於テ千八百七十年十一月二十三日ノ同盟條約第三篇第五條ノ規定ニ循フテ施行スヘシウ、イル、ン、ベル、ヅ、ニ於テ千八百七十年十一月二十一日ノ陸軍ニ關シタル條約ノ規定ニ循フテ此等ヲ施行スヘシ

○普魯西

第六六條

法ニ示シタル規式ニ循テ公布シタル公布式ニ依ラサレハ國民認知スルニ由シ

シテ諸法章及王命ハ人民必由ノ務トナル國民ハ法ヲ以テ天トス○法ニ循ヒ公布

シタル王命ノ法トスヘキカ否ヤノ検査ハ部官ニ屬セスシテ兩院ニ

屬ス王命法章ニ讓ルト一等

第六八條

兩院ノ議員及凡政府ノ官吏ハ國王ニ向テ忠順ノ誓ヲ宣ヘ

及建國法ヲ中心確守スルヲ誓フ○軍兵ハ建國法ニ誓ヲ宣ヘス獨

王ニ誓ヲ宣フルヲ云兵ハ王ニ忠ナルヲ知ル政事如何ト問ハス

第六九條

此建國法ニ乖カサル所ノ定法書及各法及王命一切ノ條規

其別法ニ由テ之ヲ廢セサル者ハ之ヲ存シテ舊ニ因ル

第七十條

舊法ニ由テ建設シタル諸官ハ官制法公布ノ日ニ至ルマテ

施行舊ニ因ル